

日野市認知度等調査

分析報告書・提案書



株式会社 ケー・シー・エス
平成28年10月

目 次

1. アンケート調査結果	1
1-1. 調査内容	2
1-2. 集計結果	5
1-3. 調査結果から分かったこと	35
1-4. 参考 日野市市民意識調査報告書（平成28年3月）	36
1-5. 本市の強み・弱みと機会・脅威	37
2. 施策展開の基本方針（提案書）	39
2-1. シティセールス推進の目的	39
2-2. シティセールスの方向性（基本方針）	40
2-3. 具体的な取り組み案	41
3. 資料編（クロス集計）	47

1. アンケート調査結果

はじめに

本調査は、「住む」「訪れる」の観点から日野市が「選ばれる市」となるため、認知度等に関する日野市の現状、強みと弱み、課題等を分析把握し、市の地域資源や魅力を市内外に発信するシティセールスの取り組みの方向性を明確化することを目的に実施した。

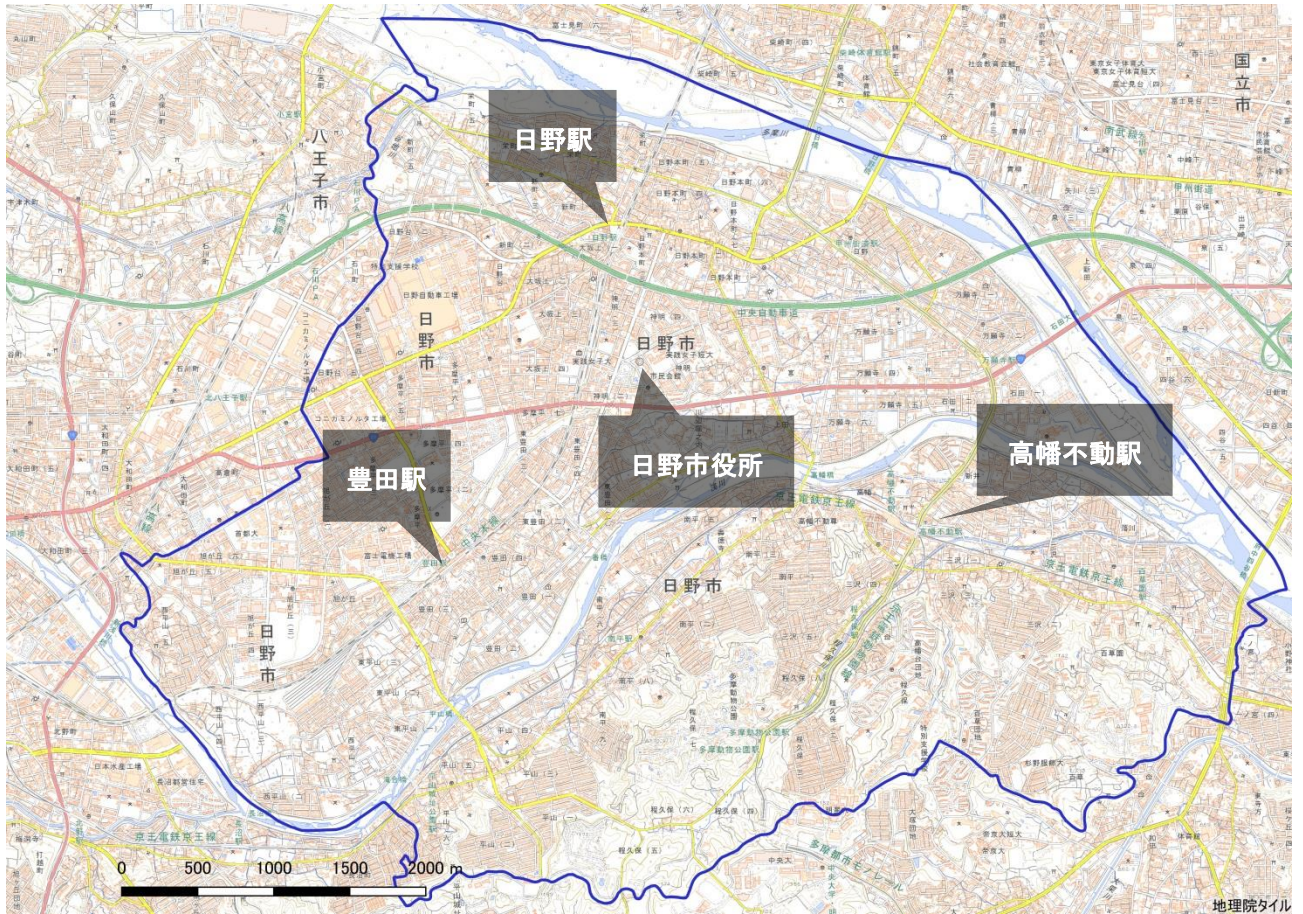


図1 日野市全域図

1-1. 調査内容

(1) 調査期間

準備期間：平成 28 年 7 月 13 日（水） ～ 平成 28 年 7 月 26 日（火）

調査期間：平成 28 年 7 月 27 日（水） ～ 平成 28 年 8 月 2 日（火）

(2) 調査箇所

調査箇所は下記地図の通り（日野市を除く）とした。

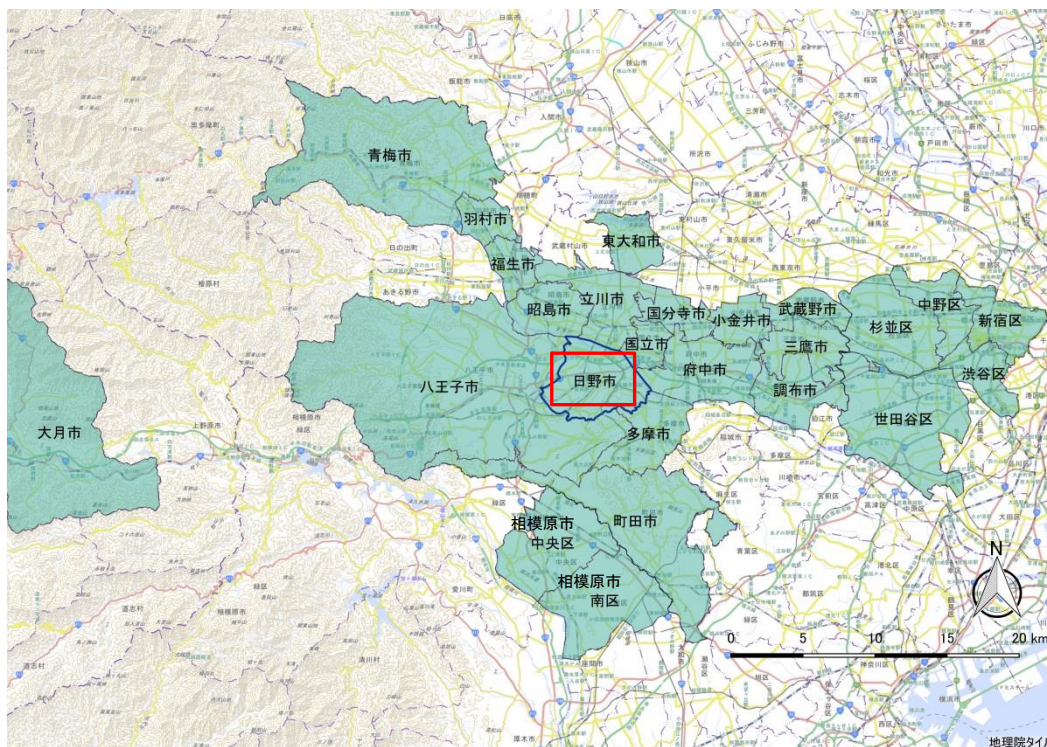


図 2 調査箇所

(3) 調査方法

- 本調査は Web アンケートとし、調査箇所所在住の住民、かつ楽天リサーチモニターの方に対してアンケート調査の依頼を行った。
- 設問の流れは、属性に関する調査（次頁表 1 の属性に該当）を 3 問回答した後、本調査（次頁表 1 の問 2 以降）を 18 問実施した。
- 回収数に達しない場合、各市で発生した不足は他市から補う(区の場合は区から補った)。

(4) 調査対象者

- 調査対象者は、調査箇所所在住の住民、かつ楽天リサーチモニターの方の内、18 歳以上の男女とした。なおサンプルは 2000 サンプル（男女別に各市区 8～9 サンプル/年代、但し相模原市（中央区・南区）においては男女別各区 4～5 サンプル/年代）とした。

(5) アンケート項目及びアンケート票

アンケート項目は、次頁表の設問および選択肢の通りとした。

表1 アンケート項目

問	設問	選択肢
属性	お住まい	東京都市区名(21)、神奈川県相模原市区名(2)、山梨県大月市
	性別	男性、女性
	年代	18～29歳、30代、40代、50代、60代以上
1	情報の入手先 (居住地)	新聞広告、雑誌広告、電車・バス等の車内広告、駅・ホーム・停留所にある広告、街頭看板、SNS、ブログ、自治体のホームページ、観光協会のホームページ、SNS～観光協会のホームページ以外のWebサイト、自治体の広報誌、テレビ・ラジオ、催事(イベント)など、クチコミ(友人や知人、家族など)、その他
2	情報の入手先 (観光)	新聞広告、雑誌広告、電車・バス等の車内広告、駅・ホーム・停留所にある広告、街頭看板、SNS、ブログ、旅行会社のホームページ、自治体のホームページ、観光協会のホームページ、SNS～観光協会のホームページ以外のWebサイト、自治体の広報誌、テレビ・ラジオ、物産展、催事(イベント)など、地域アンテナショップ、映画やドラマ等のロケ地、クチコミ(友人や知人、家族など)、その他
3	現住地の住みやすさ	住みやすい、まあまあ住みやすい、どちらともいえない、あまり住みやすいとは言えない、住みにくい
4	問3の回答理由	自然環境、買い物などの生活環境、通勤通学の利便性、道路や街並みなどの整備、医療体制、福祉サービス、保育園・学童クラブ等の体制、子育てに関する補助・助成制度、教育・文化環境、開業・就業等の支援体制、ごみの減量化やリサイクルなど環境対策、防災・減災体制、地域の人間関係、家賃・地価、その他、特になし
5	現住地に住み続ける意向	住み続けたい、できれば他所へ移りたい(移る計画がある)、余所へ移りたい希望があるが移れない、どちらともいえない
6	問5の回答理由	自然環境、買い物などの生活環境、通勤通学の利便性、道路や街並みなどの整備、医療体制、福祉サービス、保育園・学童クラブ等の体制、子育てに関する補助・助成制度、教育・文化環境、開業・就業等の支援体制、ごみの減量化やリサイクルなど環境対策、防災・減災体制、地域の人間関係、家賃・地価、その他、特になし
7	日野市の印象	水と緑のまち、新選組のふるさと、農業のまち、工業のまち、住宅地、高齢者のまち、若者のまち、先進的なまち、都会、田舎、有名な祭りやイベントがある、その他、特になし、日野市のことは知らない
8	日野市の生活環境についての印象	医療体制、福祉サービス、外国との交流、道路の整備 (充実している、普通、不足している、わからない、より選択)
9	日野市の生活環境についての印象	子育て (しやすい、普通、しにくい、わからない、より選択)
10	日野市の生活環境についての印象	教育・文化環境、スポーツ環境、交通の利便性、治安 (良い、普通、悪い、わからない、より選択)
11	日野市の生活環境についての印象	公共施設、公園、商業施設、災害・事故 (多い、普通、少ない、わからない、より選択)
12	住む町として日野市をどう思うか	住んでみたいと思う、住んでみたいと思わない、よくわからないので決められない
13	問12の回答理由	自然環境、買い物などの生活環境、通勤通学の利便性、道路や街並みなどの整備、医療体制、福祉サービス、保育園・学童クラブ等の体制、子育てに関する補助・助成制度、教育・文化環境、開業・就業等の支援体制、ごみの減量化やリサイクルなど環境対策、防災・減災体制、地域の人間関係、家賃・地価、その他、特になし
14	認知度	多摩動物公園、京王れーるランド、京王百草園、高幡不動尊、日野宿本陣、新選組のふるさと歴史館、土方歳三資料館、井上源三郎資料館、佐藤彦五郎新選組資料館、八坂神社、石田寺、宝泉寺、大昌寺、若宮神社、日野宿交流館、日野市郷土資料館、小島善太郎記念館、市民の森ふれあいホール、PlanT(多摩平の森産業連携センター)、黒川清流公園、ふれあい橋、イオンモール多摩平の森、ひの新選組まつり、ひのよさこい祭、たかはたもみじ灯路、日野市産業まつり、ひのアートフェスティバル、日野の冬フェスタ(イルミネーション)、選之助、エコアラ・エコクマ、ごみゼロマン、TOYODA BEER、「華麗になる」ひのめぐみ焼きカレーパン、土方歳三うどん (知っている、知らない、より選択)
15	往訪調査	問14で知っているとして回答したものの内、往訪に関する調査 (行ったことがある、行ったことがありまた行きたい、行ったことはないがまた行ってみたい、行きたいとは思わない、より選択)
16	希望調査	問14で知らないとして回答したものの内、希望に関する調査 (行ったことはないが行ってみたい、行きたいとは思わない、より選択)
17	日野市の施設、名所、 商品、イベント等	問14の選択肢以外で自由回答
18	日野市が力を入れるべき事業	歴史や自然、文化などを活かした新たな観光資源の創出、祭りやイベントの開催、個性ある特産品の開発、観光PRや売り込み戦略の充実、特産品などの販売体制の整備、観光情報の提供、全国大会等の誘致(コンベンションの誘致)、広域的な観光資源(ルート)の整備、来訪者に対するおもてなしの心の醸成、国際化に対する組織づくり、関連団体の組織強化、その他、特になし

※属性 居住地、年代、性別について

表 2 居住地と性別

項目	男性	女性	件数	割合(%)
八王子市	45	45	90	4.5
立川市	45	45	90	4.5
武蔵野市	44	46	90	4.5
三鷹市	45	45	90	4.5
青梅市	44	45	89	4.5
府中市	45	45	90	4.5
昭島市	44	45	89	4.5
調布市	46	44	90	4.5
町田市	45	45	90	4.5
小金井市	44	45	89	4.5
国分寺市	45	45	90	4.5
国立市	44	45	89	4.5
福生市	45	44	89	4.5
東大和市	44	45	89	4.5
多摩市	44	45	89	4.5
羽村市	50	39	89	4.5
新宿区	45	45	90	4.5
世田谷区	45	45	90	4.5
渋谷区	44	45	89	4.5
中野区	44	45	89	4.5
杉並区	45	44	89	4.5
相模原市(中央区・南区)	46	44	90	4.5
大月市	18	13	31	1.6
上記以外	0	0	0	0.0
全体	1,006	994	2,000	100.0

表 3 年代と性別

項目	男性	女性	件数	割合(%)
30歳未満(18~29歳)	44	44	88	4.4
30歳代	179	216	395	19.8
40歳代	245	207	452	22.6
50歳代	231	244	475	23.8
60歳代以上	283	307	590	29.5
合計	982	1,018	2,000	100.0

1-2. 集計結果

Q1 居住地に関する情報の入手（複数回答）

- 男女ともに「特に情報を得ることはない」が最も多く、40.9%であった。
- 次いで男女ともに「クチコミ（友人や知人、家族など）」が多く、25.1%であった。
- 「クチコミ（友人や知人、家族など）」はすべての年代において20%以上であった。
- また、「自治体のホームページ」、「テレビ・ラジオ」からは19.6%であった。
- 30歳代以下は「雑誌広告」、「駅・ホームなどの広告」、「SNS」での情報入手が多く、60歳代以上は他世代と比べて「新聞広告」から情報を得ている傾向がある。
- その他の入手手段として、「現地へ行く」（12件）や「不動産関係から」（5件）があった。

表4 居住地に関する情報の入手 (n=2,000)

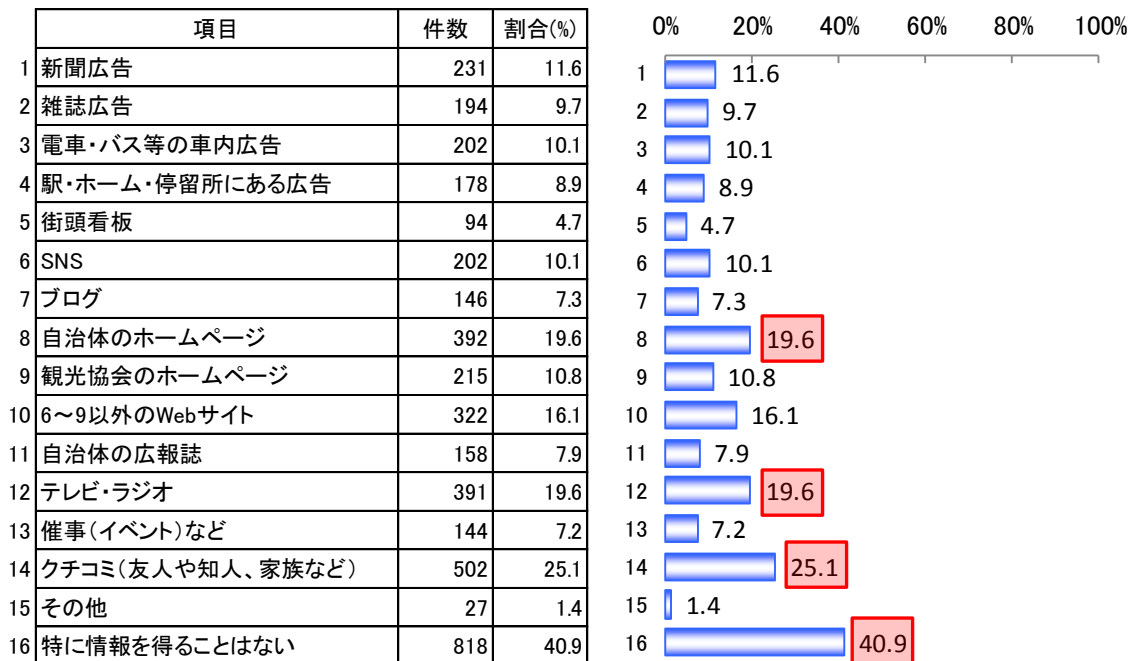


図3 居住地に関する情報の入手 (n=2,000)

表5 居住地に関する情報の入手<性別・年代別> (n=2,000)

		n	新聞広告	雑誌広告	電車・バス等の車内広告	駅・ホーム・停留所にある広告	街頭看板	SNS	ブログ	自治体のホームページ	観光協会のホームページ	左記以外のウェブサイト	自治体の広報誌	テレビ・ラジオ	催事(イベント)など	クチコミ(友人や知人、家族など)	その他	特に情報を得ることはない
全体		2000	11.6	9.7	10.1	8.9	4.7	10.1	7.3	19.6	10.8	16.1	7.9	19.6	7.2	25.1	1.4	40.9
性別	男性	1006	12.9	10.1	11.3	9.1	4.7	9.4	7.3	20.9	11.1	18.3	8.7	19.3	6.9	21.1	1.6	40.1
	女性	994	10.2	9.3	8.9	8.7	4.7	10.8	7.3	18.3	10.4	13.9	7.0	19.8	7.5	29.2	1.1	41.8
年代	30歳未満※	312	7.7	12.2	16.3	13.5	8.3	22.1	9.6	17.6	9.9	16.3	7.4	20.8	7.1	27.2	1.0	38.1
	30歳代	434	9.0	10.4	12.4	11.3	4.1	12.2	10.4	21.9	10.1	21.7	6.2	17.1	7.4	29.5	1.2	36.2
	40歳代	430	9.5	8.4	9.1	8.1	5.6	10.0	8.4	20.0	9.5	18.1	7.4	18.8	6.0	25.6	0.9	43.3
	50歳代	425	11.8	9.6	6.4	6.4	3.1	6.6	5.9	18.6	12.0	13.9	7.3	20.5	8.2	21.2	2.8	40.9
	60歳代以上	399	19.3	8.5	7.8	6.3	3.3	2.3	2.5	19.3	12.0	10.0	11.3	21.1	7.3	22.3	0.8	45.6

※30歳未満は18~29歳

表6 居住地に関する情報の入手<その他の回答>

問	質問内容	回答
Q1	あなたが住みたいと思うまちの情報をどのようなところで入手しますか。(いくつでも)	・実際に行く(12件) ・不動産関係から(5件) 他

【調査結果から分かったこと】

- ①居住地に関して情報を得ることがない住民が40%近くいることを念頭に置く必要はあるが、全世代に向けて情報を発信する際はホームページなどのWEB、テレビ・ラジオ、クチコミを用いるのが効果的である。この内、クチコミから情報を得ている方は世代を問わず20%を超えていることから、住民発のクチコミを利用した広報をしていくことが考えられる。そのためには、日々の市の活動を通して住民の満足度を上げた上で、そのことを住民へPRしていくことが必要と考えられる。
- ②紙媒体の場合、年代により情報の入手手段の傾向が異なることから、広告を出す場合は訴求したい年代に合わせた媒体選定をする。
- ③クチコミ以外では、30歳代以下へは「雑誌・車内広告」や「SNS」、60歳代以上は「新聞広告」より情報提供を行うのが効果的と考えられる。

Q2 観光に関する情報の入手（複数回答）

- 観光に関する情報を得ている方は、男女ともに「旅行会社のホームページ」が最も多く、43.1%であった。
- 次いで男女ともに「観光協会のホームページ」が多く36.9%であった。
- また、「特に情報を得ることはない」と答えた人は14.8%であった。
- 居住地の情報の入手と比べると、観光の情報の方が性別により差が開く傾向がある。
- 「クチコミ（友人や知人、家族など）」の割合も高く、すべての年代において20%以上であった。
- 30歳代以下は「雑誌や車内広告」、そして「WEB」での入手が多く、60歳以上は「新聞広告」から情報を得ている傾向がある。
- その他の入手手段として、「ガイドブック」（14件）や「雑誌」（13件）、「記事」（6件）があった。

表7 観光に関する情報の入手（n=2,000）

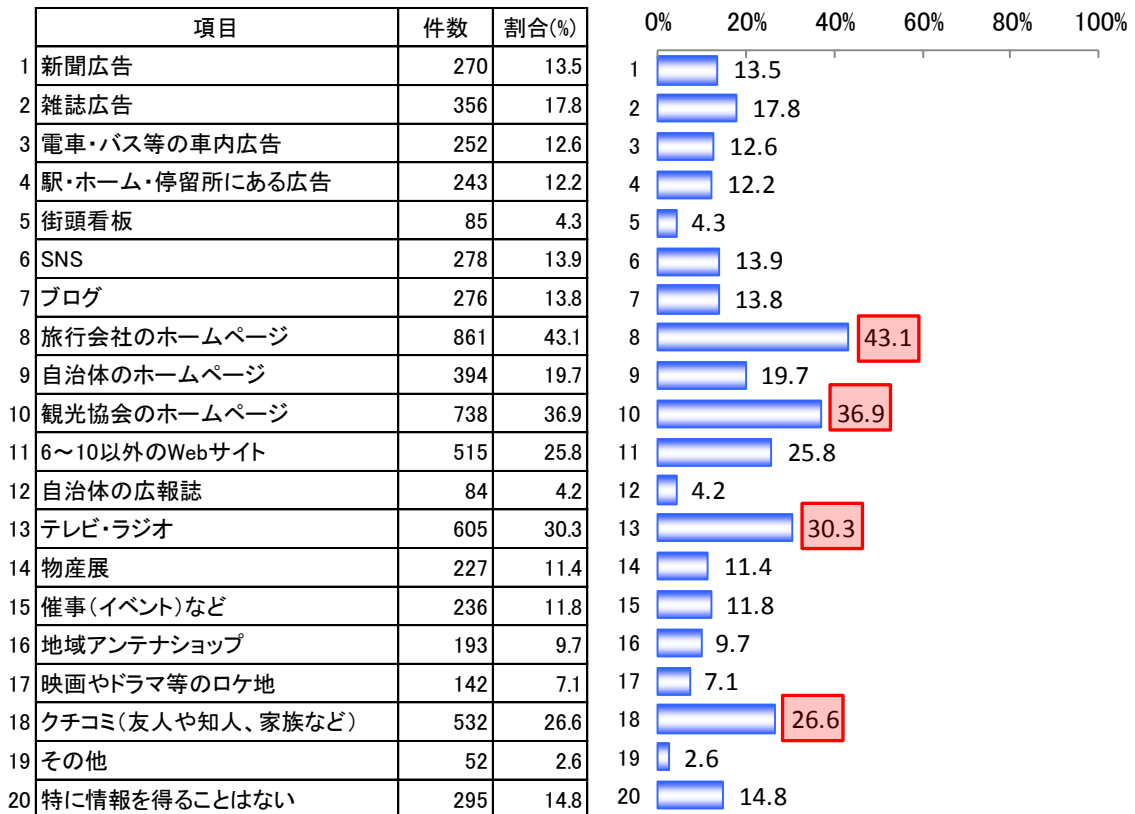


図4 観光に関する情報の入手（n=2,000）

表 8 観光に関する情報の入手<性別・年代・居住地別> (n=2,000)

		n	新聞 広告	雑誌 広告	電車・バス 等の車内 広告	駅・ホーム・ 停留所 にある 広告	街頭 看板	S N S	ブ ロ グ	旅行 会社 の ホ ー ム ペ ー ジ	自 治 体 の ホ ー ム ペ ー ジ	観 光 協 会 の ホ ー ム ペ ー ジ	左 記 以 外 の W e b サ イ ト	自 治 体 の 広 報 誌	テ レ ビ ・ ラ ジ オ	物 産 展	催 事 (イ ベ ン ト) な ど	地 域 ア ン テ ナ シ ョ ッ プ	映 画 や ド ラ マ 等 の ロ ケ 地	ク チ コ ミ (友 人 や 知 人 、 家 族 な ど)	そ の 他	特 に 情 報 を 得 る こ と は な い
全体		2000	13.5	17.8	12.6	12.2	4.3	13.9	13.8	43.1	19.7	36.9	25.8	4.2	30.3	11.4	11.8	9.7	7.1	26.6	2.6	14.8
性別	男性	1006	15.2	16.9	12.6	10.7	3.8	11.6	11.2	39.7	20.5	35.5	28.1	4.2	28.1	7.9	9.5	6.9	5.4	20.0	3.0	17.2
	女性	994	11.8	18.7	12.6	13.6	4.7	16.2	16.4	46.5	18.9	38.3	23.3	4.2	32.4	14.9	14.1	12.5	8.9	33.3	2.2	12.3
年代	30歳未満※	312	6.7	21.5	18.9	17.3	6.7	33.3	19.6	35.9	16.3	25.0	21.8	4.2	30.8	10.6	13.1	7.7	10.6	26.9	1.6	19.2
	30歳代	434	8.1	22.4	14.1	12.7	6.9	18.7	19.1	45.2	18.2	34.1	29.3	5.5	26.0	12.9	14.5	10.6	7.6	27.9	1.2	16.8
	40歳代	430	10.0	13.3	11.9	10.0	4.7	12.3	15.3	41.9	23.3	36.5	32.3	3.7	27.4	9.3	8.4	10.0	5.6	25.8	3.7	13.7
	50歳代	425	12.0	14.4	8.0	10.8	1.2	7.5	10.6	45.6	21.2	44.5	23.8	2.8	31.3	12.9	11.8	9.2	6.4	23.5	2.6	14.1
	60歳代以上	399	34.3	30.1	17.0	20.6	3.0	9.5	16.3	84.2	37.6	81.0	41.9	5.5	61.9	22.1	22.3	17.8	12.3	47.6	6.0	23.6
居住地	八王子市	90	25.6	23.3	14.4	17.8	5.6	14.4	13.3	45.6	25.6	37.8	25.6	7.8	28.9	11.1	11.1	5.6	7.8	27.8	0.0	12.2
	立川市	90	8.9	12.2	15.6	7.8	3.3	8.9	15.6	38.9	15.6	33.3	27.8	2.2	24.4	6.7	8.9	7.8	4.4	18.9	3.3	15.6
	武蔵野市	90	14.4	14.4	14.4	13.3	7.8	14.4	15.6	51.1	22.2	37.8	35.6	7.8	34.4	11.1	11.1	12.2	6.7	23.3	2.2	14.4
	三鷹市	90	14.4	17.8	7.8	6.7	3.3	15.6	15.6	46.7	21.1	34.4	31.1	3.3	33.3	13.3	13.3	13.3	6.7	25.6	5.6	12.2
	青梅市	89	15.7	18.0	19.1	16.9	6.7	16.9	15.7	47.2	25.8	40.4	23.6	4.5	39.3	14.6	19.1	12.4	14.6	31.5	2.2	12.4
	府中市	90	16.7	20.0	13.3	14.4	5.6	17.8	15.6	45.6	18.9	33.3	22.2	1.1	30.0	11.1	12.2	7.8	12.2	23.3	1.1	16.7
	昭島市	89	9.0	15.7	5.6	5.6	1.1	13.5	11.2	41.6	15.7	36.0	21.3	5.6	21.3	9.0	6.7	5.6	2.2	21.3	3.4	16.9
	調布市	90	12.2	14.4	11.1	6.7	3.3	10.0	10.0	37.8	14.4	27.8	27.8	2.2	31.1	7.8	5.6	13.3	5.6	23.3	2.2	14.4
	町田市	90	16.7	22.2	13.3	13.3	6.7	17.8	11.1	42.2	20.0	34.4	18.9	6.7	30.0	13.3	8.9	11.1	6.7	28.9	3.3	17.8
	小金井市	89	10.1	19.1	13.5	12.4	4.5	13.5	13.5	43.8	21.3	43.8	27.0	4.5	30.3	7.9	11.2	10.1	7.9	22.5	2.2	16.9
	国分寺市	90	8.9	13.3	11.1	11.1	0.0	18.9	13.3	37.8	16.7	36.7	30.0	3.3	28.9	8.9	7.8	3.3	4.4	27.8	3.3	15.6
	国立市	89	12.4	16.9	9.0	16.9	5.6	16.9	16.9	33.7	22.5	38.2	30.3	5.6	23.6	9.0	13.5	11.2	7.9	30.3	2.2	15.7
	福生市	89	16.9	18.0	12.4	7.9	1.1	3.4	6.7	44.9	12.4	40.4	23.6	2.2	31.5	10.1	13.5	6.7	7.9	30.3	2.2	16.9
	東大和市	89	10.1	19.1	7.9	6.7	4.5	10.1	9.0	44.9	20.2	36.0	23.6	4.5	25.8	11.2	6.7	4.5	4.5	25.8	1.1	15.7
	多摩市	89	11.2	15.7	5.6	13.5	4.5	12.4	9.0	36.0	14.6	33.7	21.3	4.5	27.0	10.1	12.4	7.9	9.0	20.2	4.5	15.7
	羽村市	89	16.9	21.3	16.9	12.4	0.0	14.6	14.6	52.8	22.5	39.3	27.0	4.5	37.1	10.1	12.4	6.7	10.1	31.5	2.2	11.2
	新宿区	90	15.6	17.8	18.9	16.7	4.4	22.2	23.3	35.6	26.7	38.9	24.4	2.2	36.7	17.8	13.3	13.3	8.9	26.7	5.6	14.4
	世田谷区	90	14.4	17.8	18.9	12.2	4.4	13.3	10.0	46.7	12.2	40.0	11.1	3.3	32.2	11.1	14.4	12.2	5.6	34.4	2.2	17.8
	渋谷区	89	9.0	19.1	13.5	16.9	6.7	16.9	19.1	43.8	28.1	42.7	28.1	2.2	33.7	21.3	23.6	14.6	6.7	29.2	1.1	9.0
	中野区	89	10.1	21.3	11.2	13.5	6.7	13.5	14.6	40.4	14.6	32.6	22.5	4.5	28.1	9.0	9.0	6.7	2.2	23.6	3.4	13.5
杉並区	89	18.0	20.2	15.7	12.4	5.6	14.6	16.9	55.1	22.5	36.0	33.7	5.6	33.7	16.9	16.9	15.7	6.7	29.2	2.2	16.9	
相模原市(中央区・南区)	90	12.2	15.6	11.1	14.4	3.3	10.0	13.3	41.1	18.9	40.0	28.9	5.6	31.1	10.0	11.1	11.1	8.9	28.9	2.2	13.3	
大月市	31	6.5	12.9	3.2	6.5	0.0	3.2	12.9	25.8	22.6	32.3	29.0	0.0	9.7	6.5	3.2	6.5	3.2	29.0	0.0	12.9	

※30歳未満は18～29歳

表9 観光に関する情報の入手<その他の回答>

Q2	旅行先、観光地等に関する情報をどのようなところで入手しますか。(いくつでも)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブック (14件) ・雑誌 (13件) ・記事<雑誌・新聞> (6件) ・本 (4件) ・パンフレット (3件) 他
----	--	---

【調査結果から分かったこと】

- ①居住地の情報を得る際と似た傾向となるが、居住地の場合と比べ情報を得ない方の割合は低く、このことからPRしたい観光情報を発信していくことが重要となる。
- ②世代を問わずWEBやテレビ・ラジオ経由で情報を入手しているが、旅行会社や観光協会からの情報入手がメインであることから、それらを通して情報発信をしていくことが望ましい。
- ③居住地の際と同様に、クチコミから情報を得ている場合も多いため、住民や観光客発のクチコミを利用した広報をしていくことが考えられる。
- ④テレビやラジオなどのマスコミによる宣伝効果は高く、NHKの昼の番組やニュースに取り上げられることにより来訪者が増えた区市町村もある。メディアとの繋がりを強化していく必要がある。また、旅行会社との連携、旅行会社へのPRをする機会を作る必要がある<ファミトリップ※1の企画も必要>。
- ⑤観光情報は男性と比べると女性の方が入手する傾向(「新聞・雑誌・車内・街頭の広告は除く」)があるため、女性を意識した発信をするとより効果的に伝わると考えられる。

※1 ファミトリップ

Familiarization Trip (下見招待旅行) の略称。将来の観光客となる可能性のある組織の代表者らを現地に招いて下見を目的としたツアーを催し、施設や地域を視察してもらうために行う旅行のこと。

Q3、4 現在の居住地の住みやすさ（択一回答）と理由（複数回答）

- 現在の居住地が「住みやすい」または、「まあまあ住みやすい」と回答した方は84.7%であった。理由としては、「買い物などの生活環境」や「通勤通学の利便性」、「自然環境」の順に、それぞれ50%以上を占めていた。
- 現在の居住地が「あまり住みやすいとはいえない」または、「住みにくい」と回答した人は、5.3%と少なかった。
- 地域の間関係は「住みやすさ」と「住みにくさ」ともに同じ割合である(16%台)。
- 居住地別にみると、立川市より西に行くに従い、「住みやすい」という評価が減少傾向にある。
- 「住みやすい」と回答した理由を年代別にみると、30～50歳代は「通勤通学の利便性」、60歳代以上になると「自然、医療、福祉、教育、文化環境」や「地域の間関係」と異なる点を重視している。
- 住みやすいと回答した理由を居住地別にみると、区部では「自然環境」より「通勤通学の利便性」が多く、市部では「自然環境」と「通勤通学の利便性」の両方を重視する傾向がある。但し、立川市より西側の一部の市では、「通勤通学の利便性」を重視する割合が40%台となり、他都市と比較して低い。
- 「買い物などの生活環境」は世代、居住地を問わず多い。

表 10 現在の居住地の住みやすさ
(n=2,000)

項目	件数	割合(%)
住みやすい	740	37.0
まあまあ住みやすい	953	47.7
どちらともいえない	203	10.2
あまり住みやすいとはいえない	75	3.8
住みにくい	29	1.5
合計	2,000	100.0

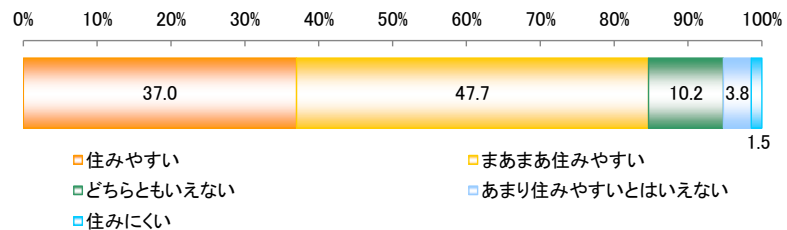


図 5 現在の居住地の住みやすさ
(n=2,000)

表 11 現在の居住地の住みやすさの回答理由

	住みやすい + まあまあ 住みやすい (n=1,693)		どちらとも いえない (n=203)		あまり住みやすい とはいえない + 住みにくい (n=302)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
自然環境	860	50.8	43	21.2	18	17.3
買い物などの生活環境	1,277	75.4	73	36.0	50	48.1
通勤通学の利便性	879	51.9	51	25.1	40	38.5
道路や街並みなどの整備	609	36.0	32	15.8	31	29.8
医療体制	398	23.5	25	12.3	27	26.0
福祉サービス	140	8.3	18	8.9	14	13.5
保育園、学童クラブ等の体制	92	5.4	5	2.5	10	9.6
子育てに関する補助、助成制度	89	5.3	11	5.4	10	9.6
子育てに関する相談体制	28	1.7	3	1.5	2	1.9
教育・文化環境	213	12.6	17	8.4	17	16.3
開業・就業等の支援体制	19	1.1	5	2.5	3	2.9
ごみの減量化やリサイクルなど環境対策	246	14.5	15	7.4	17	16.3
防災・減災体制	130	7.7	11	5.4	11	10.6
地域の人間関係	279	16.5	24	11.8	17	16.3
家賃・地価	212	12.5	23	11.3	18	17.3
その他	23	1.4	3	1.5	10	9.6
特になし	53	3.1	58	28.6	7	6.7

(右側) 表 12 現在の居住地の
住みやすさの理由 (複数回答)
<居住地別> (n=2,000)

		n	住みやすい	まあまあ住みやすい	どちらともいえない	あまり住みやすいとはいえない	住みにくい
全体		2000	37.0	47.7	10.2	3.8	1.5
居住地	八王子市	90	27.8	48.9	17.8	4.4	1.1
	立川市	90	36.7	46.7	11.1	3.3	2.2
	武蔵野市	90	50.0	40.0	6.7	2.2	1.1
	三鷹市	90	43.3	46.7	5.6	3.3	1.1
	青梅市	89	24.7	50.6	18.0	6.7	0.0
	府中市	90	51.1	35.6	10.0	2.2	1.1
	昭島市	89	41.6	41.6	12.4	3.4	1.1
	調布市	90	37.8	47.8	6.7	5.6	2.2
	町田市	90	27.8	57.8	11.1	3.3	0.0
	小金井市	89	31.5	52.8	7.9	7.9	0.0
	国分寺市	90	32.2	55.6	11.1	1.1	0.0
	国立市	89	37.1	48.3	10.1	3.4	1.1
	福生市	89	14.6	57.3	22.5	3.4	2.2
	東大和市	89	24.7	57.3	7.9	6.7	3.4
	多摩市	89	39.3	48.3	4.5	3.4	4.5
	羽村市	89	42.7	44.9	7.9	4.5	0.0
	新宿区	90	42.2	42.2	10.0	4.4	1.1
	世田谷区	90	45.6	44.4	5.6	2.2	2.2
	渋谷区	89	56.2	33.7	7.9	1.1	1.1
	中野区	89	42.7	50.6	4.5	2.2	0.0
杉並区	89	48.3	48.3	3.4	0.0	0.0	
相模原市(中央区・南区)	90	25.6	54.4	12.2	5.6	2.2	
大月市	31	9.7	32.3	35.5	9.7	12.9	

表 13 現在の居住地が住みやすいと回答した理由<性別・年代・居住地別> (n=740)

		n	自然環境	買い物などの生活環境	通勤通学の利便性	道路や街並みなどの整備	医療体制	福祉サービス	保育園、学童クラブ等の体制	子育てに関する補助、助成	子育てに関する相談体制	教育・文化環境	開業・就業等の支援体制	ごみの減量化やリサイクルなど環境対策	防災・減災体制	地域の人間関係	家賃・地価	その他	特にない
全体		740	56.1	81.5	59.2	45.8	29.6	11.6	7.0	7.6	2.7	18.0	1.5	18.9	10.5	20.3	10.8	1.5	1.2
性別	男性	383	57.7	79.9	61.4	44.6	25.8	9.7	8.4	7.3	2.6	18.8	2.1	17.8	11.5	20.4	9.1	1.3	1.6
	女性	357	54.3	83.2	56.9	47.1	33.6	13.7	5.6	7.8	2.8	17.1	0.8	20.2	9.5	20.2	12.6	1.7	0.8
年代	30歳未満※	122	50.8	80.3	61.5	42.6	12.3	9.0	5.7	6.6	4.1	13.1	2.5	11.5	8.2	18.9	14.8	0.0	3.3
	30歳代	157	56.7	76.4	61.8	47.1	19.7	6.4	11.5	13.4	4.5	12.1	0.6	7.0	5.1	16.6	14.6	1.9	1.3
	40歳代	141	53.9	81.6	64.5	42.6	24.1	4.3	6.4	10.6	2.1	19.1	1.4	17.7	5.7	17.0	10.6	2.8	0.7
	50歳代	152	52.6	84.2	61.8	44.7	26.3	12.5	5.9	4.6	2.6	17.1	2.6	17.1	11.8	21.7	9.9	2.0	1.3
	60歳代以上	168	64.3	84.5	48.2	50.6	58.9	23.8	5.4	3.0	0.6	26.8	0.6	38.1	20.2	26.2	5.4	0.6	0.0
居住地	八王子市	25	84.0	80.0	40.0	52.0	24.0	4.0	0.0	4.0	0.0	12.0	0.0	8.0	4.0	12.0	20.0	0.0	0.0
	立川市	33	27.3	100.0	36.4	39.4	27.3	18.2	9.1	0.0	3.0	12.1	0.0	9.1	12.1	15.2	15.2	0.0	0.0
	武蔵野市	45	64.4	82.2	60.0	51.1	31.1	22.2	6.7	0.0	0.0	26.7	2.2	28.9	11.1	11.1	4.4	2.2	2.2
	三鷹市	39	56.4	84.6	76.9	38.5	25.6	7.7	10.3	7.7	2.6	25.6	2.6	12.8	10.3	17.9	7.7	2.6	2.6
	青梅市	22	86.4	77.3	36.4	50.0	31.8	9.1	9.1	13.6	13.6	9.1	4.5	18.2	18.2	27.3	27.3	0.0	0.0
	府中市	46	80.4	80.4	63.0	71.7	50.0	39.1	13.0	13.0	6.5	37.0	4.3	41.3	23.9	30.4	17.4	0.0	2.2
	昭島市	37	64.9	70.3	51.4	32.4	10.8	0.0	8.1	2.7	0.0	2.7	0.0	10.8	0.0	16.2	10.8	5.4	2.7
	調布市	34	58.8	88.2	61.8	35.3	23.5	14.7	2.9	5.9	2.9	14.7	0.0	20.6	8.8	20.6	5.9	0.0	0.0
	町田市	25	72.0	68.0	60.0	32.0	24.0	12.0	8.0	20.0	4.0	12.0	4.0	16.0	12.0	20.0	24.0	0.0	0.0
	小金井市	28	71.4	67.9	78.6	17.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	10.7	0.0	10.7	7.1	0.0	0.0
	国分寺市	29	79.3	82.8	41.4	37.9	10.3	0.0	6.9	3.4	3.4	6.9	0.0	24.1	6.9	6.9	6.9	0.0	0.0
	国立市	33	72.7	81.8	54.5	60.6	15.2	3.0	3.0	3.0	6.1	30.3	0.0	12.1	0.0	18.2	3.0	3.0	0.0
	福生市	13	69.2	84.6	61.5	38.5	46.2	30.8	23.1	30.8	7.7	7.7	0.0	30.8	23.1	46.2	15.4	0.0	0.0
	東大和市	22	81.8	95.5	45.5	50.0	31.8	4.5	13.6	9.1	0.0	0.0	0.0	13.6	4.5	18.2	22.7	0.0	0.0
	多摩市	35	82.9	74.3	40.0	51.4	22.9	14.3	2.9	2.9	0.0	17.1	0.0	14.3	5.7	20.0	8.6	5.7	2.9
	羽村市	38	73.7	81.6	44.7	65.8	26.3	21.1	15.8	18.4	5.3	21.1	0.0	39.5	36.8	52.6	26.3	2.6	0.0
	新宿区	38	10.5	84.2	81.6	39.5	60.5	7.9	5.3	10.5	2.6	18.4	0.0	7.9	13.2	21.1	2.6	2.6	0.0
	世田谷区	41	39.0	78.0	61.0	41.5	31.7	12.2	0.0	0.0	0.0	14.6	0.0	14.6	9.8	22.0	4.9	0.0	2.4
	渋谷区	50	24.0	80.0	84.0	50.0	34.0	6.0	12.0	18.0	0.0	28.0	2.0	18.0	6.0	20.0	2.0	0.0	0.0
	中野区	38	23.7	84.2	65.8	36.8	36.8	5.3	2.6	5.3	0.0	13.2	5.3	21.1	10.5	18.4	10.5	0.0	2.6
	杉並区	43	25.6	88.4	72.1	51.2	34.9	7.0	4.7	4.7	0.0	27.9	2.3	18.6	9.3	20.9	7.0	4.7	2.3
	相模原市(中央区・南区)	23	43.5	87.0	47.8	47.8	30.4	13.0	4.3	8.7	13.0	4.3	4.3	17.4	4.3	4.3	13.0	0.0	4.3
	大月市	3	100.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※30歳未満は18～29歳

【調査結果から分かったこと】

- ①区部在住者は「自然環境」よりも「通勤通学の利便性」を重視する傾向があるため、日野市としては「自然環境」の良さだけでなく「通勤通学の利便性」も良いことをPRしていく必要がある。
- ②市部在住者へは「自然環境」と「通勤通学の利便性」を共にPRしていく必要がある。特に立川市より西側の市に対しては「通勤通学の利便性」に比重をおいたPRが効果的である。
- ③世代別のPRとして、30～50歳代へは「通勤通学の利便性」、60歳代以上へ「は医療・福祉体制」や「教育・文化環境の良さ」をPRしていくことが考えられる。
- ④「買い物などの生活環境」は年代を問わず重視しているため、欠かさずPRをすることが望ましい。

Q5、6 現在の居住地の定住意向（択一回答）と理由（複数回答）

- 現在の居住地に「住み続けたい」と回答した方は59.6%と半数を超えていた。年代が高くなるにつれて「住み続けたい」傾向が強まっている。「住み続けたい」理由としては、「買い物などの生活環境」（70.6%）や「自然環境」（49.6%）、「通勤通学の利便性」（47.7%）が上位を占めていた。
- 「他所へ移りたい希望があるが移れない」と「できれば他所へ移りたい（移る計画がある）」は、どちらも10%前後であった。理由は、「買い物などの生活環境」と「通勤通学の利便性」、「家賃・地価」、「家族・親族の事情」が上位を占めていた。
- 30歳未満は「できれば他所へ移りたい」と考えている人が23.4%いた。
- 「住み続けたい」と回答した理由を年代別にみると、現在の居住地の住みやすさ（Q4）と同じく、30～50歳代は「通勤通学の利便性」、60歳代以上になると「自然、医療、福祉、教育、文化環境」や「地域の人間関係」が多かった。
- 同様に、「住み続けたい」と回答した理由を居住地別にみると、立川市及び区部では「自然環境」と回答した割合が低い。また、ほとんどの地域で「買い物などの生活環境」が多く、「通勤通学の利便性」は区部や中央線沿線、京王線沿線（府中市より東側）であった。
- 他所へ移りたいと回答した理由を年代別にみると、30歳代以下は「通勤通学の利便性」を挙げ、「家賃・地価」に関しては、40歳代までが理由に挙げていた。

表 14 現在の居住地の定住意向（n=2,000）

	項目	件数	割合(%)
1	住み続けたい	1192	59.6
2	できれば他所へ移りたい(移る計画がある)	227	11.4
3	他所へ移りたい希望があるが移れない	194	9.7
4	どちらともいえない	387	19.4
	合計	2,000	100.0

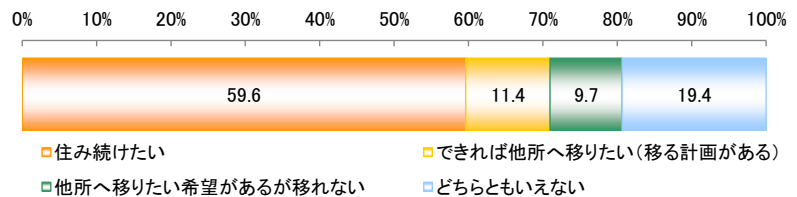


図 6 現在の居住地の定住意向（n=2,000）

表 15 現在の居住地の定住意向の回答理由

	住み続けたい (n=1192)		できれば他所へ 移りたい (移る計画がある) (n=227)		他所へ移りたい 希望があるが 移れない (n=194)		どちらとも いえない (n=387)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
自然環境	591	49.6	52	22.9	26	13.4	46	11.9
買い物などの生活環境	841	70.6	59	26.0	43	22.2	69	17.8
通勤通学の利便性	569	47.7	70	30.8	51	26.3	73	18.9
道路や街並みなどの整備	355	29.8	22	9.7	23	11.9	18	4.7
医療体制	260	21.8	17	7.5	23	11.9	31	8.0
福祉サービス	88	7.4	15	6.6	14	7.2	20	5.2
保育園、学童クラブ等の体制	46	3.9	9	4.0	6	3.1	10	2.6
子育てに関する補助、助成制度	49	4.1	16	7.0	9	4.6	16	4.1
子育てに関する相談体制	15	1.3	8	3.5	2	1.0	9	2.3
教育・文化環境	136	11.4	22	9.7	14	7.2	10	2.6
開業・就業等の支援体制	14	1.2	9	4.0	3	1.5	5	1.3
ごみの減量化やリサイクルなど環境対策	132	11.1	13	5.7	9	4.6	9	2.3
防災・減災体制	98	8.2	12	5.3	3	1.5	11	2.8
地域の人間関係	197	16.5	17	7.5	14	7.2	25	6.5
家賃・地価	121	10.2	44	19.4	52	26.8	55	14.2
家族・親族の事情	149	12.5	30	13.2	57	29.4	51	13.2
その他	18	1.5	17	7.5	15	7.7	15	3.9
特になし	65	5.5	19	8.4	11	5.7	158	40.8

表 16 現在の居住地の定住意向
＜性別・年代・居住地別＞ (n=2,000)

		n	住み 続け たい	で き れ ば 他 所 へ 移 り た い (移 る 計 画 が あ る)	が 移 れ な い 他 所 へ 移 り た い 希 望 が あ る	ど ち ら と も い え な い
全体		2000	59.6	11.4	9.7	19.4
性別	男性	1006	61.4	10.7	8.4	19.4
	女性	994	57.7	12.0	11.0	19.3
年代	30歳未満※	312	45.5	23.4	9.0	22.1
	30歳代	434	56.7	13.4	12.2	17.7
	40歳代	430	57.7	10.2	10.0	22.1
	50歳代	425	62.1	7.1	8.5	22.4
	60歳代以上	399	73.2	5.5	8.5	12.8
	居住地	八王子市	90	45.6	10.0	13.3
	立川市	90	54.4	13.3	10.0	22.2
	武蔵野市	90	67.8	13.3	7.8	11.1
	三鷹市	90	58.9	11.1	10.0	20.0
	青梅市	89	53.9	7.9	15.7	22.5
	府中市	90	72.2	12.2	4.4	11.1
	昭島市	89	57.3	10.1	10.1	22.5
	調布市	90	57.8	13.3	8.9	20.0
	町田市	90	56.7	11.1	5.6	26.7
	小金井市	89	58.4	13.5	9.0	19.1
	国分寺市	90	65.6	13.3	8.9	12.2
	国立市	89	57.3	12.4	10.1	20.2
	福生市	89	46.1	15.7	14.6	23.6
	東大和市	89	58.4	9.0	7.9	24.7
	多摩市	89	59.6	5.6	18.0	16.9
	羽村市	89	65.2	7.9	14.6	12.4
	新宿区	90	66.7	11.1	5.6	16.7
	世田谷区	90	65.6	7.8	5.6	21.1
	渋谷区	89	67.4	18.0	4.5	10.1
	中野区	89	68.5	9.0	7.9	14.6
	杉並区	89	61.8	11.2	5.6	21.3
	相模原市(中央区・南区)	90	51.1	14.4	8.9	25.6
	大月市	31	45.2	6.5	29.0	19.4

※30歳未満は18~29歳

表 17 現在の居住地の定住意向の回答理由<年代・居住地別> (n=2,000)

		n	自然環境	買い物などの生活環境	通勤通学の利便性	道路や街並みなどの整備	医療体制	福祉サービス	制	保育園、学童クラブ等の体制	子育てに関する補助、助成	子育てに関する相談体制	教育・文化環境	開業・就業等の支援体制	ごみの減量化やリサイクルなど環境対策	防災・減災体制	地域の人間関係	家賃・地価	家族・親族の事情	その他	特にない
全体		2000	35.8	50.6	38.2	20.9	16.6	6.9	3.6	4.5	1.7	9.1	1.6	8.2	6.2	12.7	13.6	14.4	3.3	12.7	
性別	男性	1006	37.7	50.7	39.6	20.0	16.2	5.9	3.5	3.4	1.2	8.8	1.8	7.6	6.5	12.7	13.4	12.0	2.7	14.8	
	女性	994	33.8	50.5	36.7	21.8	16.9	7.8	3.6	5.6	2.2	9.4	1.3	8.8	5.9	12.6	13.8	16.7	3.8	10.5	
年代	30歳未満※	312	27.2	40.1	47.1	18.3	8.3	5.1	4.5	8.3	4.2	10.6	3.2	5.1	3.8	10.3	17.0	11.5	2.9	18.6	
	30歳代	434	36.4	46.8	41.5	18.4	10.8	5.5	7.1	8.5	3.0	8.5	1.6	3.2	3.5	9.4	18.0	12.7	2.8	10.6	
	40歳代	430	31.6	50.2	41.6	20.2	11.4	3.0	2.6	3.7	1.2	6.0	1.2	5.6	4.4	9.8	14.2	16.7	3.3	12.8	
	50歳代	425	33.6	52.5	36.7	19.5	15.3	8.2	1.4	1.9	0.7	8.5	1.4	8.5	5.9	12.9	12.2	14.8	3.8	14.1	
	60歳代以上	399	48.4	61.4	25.3	27.8	36.1	12.3	2.3	0.8	0.0	12.5	0.8	18.3	13.3	20.8	7.0	15.3	3.5	8.5	
居住地	八王子市	90	42.2	46.7	27.8	17.8	15.6	5.6	3.3	4.4	1.1	6.7	1.1	5.6	7.8	12.2	11.1	17.8	4.4	16.7	
	立川市	90	26.7	52.2	36.7	24.4	17.8	8.9	3.3	2.2	1.1	4.4	0.0	4.4	8.9	12.2	15.6	14.4	5.6	7.8	
	武蔵野市	90	41.1	60.0	46.7	30.0	22.2	12.2	2.2	4.4	0.0	11.1	1.1	15.6	8.9	10.0	8.9	8.9	2.2	11.1	
	三鷹市	90	36.7	46.7	44.4	20.0	16.7	5.6	7.8	5.6	3.3	12.2	3.3	5.6	10.0	12.2	20.0	8.9	4.4	11.1	
	青梅市	89	43.8	42.7	37.1	19.1	19.1	4.5	2.2	2.2	2.2	5.6	2.2	4.5	5.6	16.9	23.6	20.2	2.2	12.4	
	府中市	90	45.6	51.1	38.9	34.4	27.8	18.9	4.4	7.8	4.4	16.7	3.3	15.6	11.1	13.3	12.2	13.3	2.2	13.3	
	昭島市	89	37.1	47.2	34.8	15.7	2.2	2.2	3.4	2.2	0.0	5.6	1.1	7.9	2.2	10.1	12.4	9.0	3.4	18.0	
	調布市	90	33.3	51.1	37.8	16.7	15.6	3.3	5.6	6.7	2.2	10.0	0.0	20.0	6.7	13.3	12.2	21.1	2.2	13.3	
	町田市	90	37.8	41.1	26.7	14.4	13.3	4.4	2.2	5.6	3.3	3.3	2.2	4.4	4.4	13.3	11.1	13.3	5.6	17.8	
	小金井市	89	38.2	40.4	40.4	9.0	10.1	4.5	2.2	3.4	2.2	7.9	0.0	12.4	0.0	9.0	10.1	14.6	4.5	11.2	
	国分寺市	90	36.7	51.1	37.8	16.7	10.0	2.2	3.3	4.4	3.3	8.9	2.2	11.1	5.6	11.1	11.1	8.9	5.6	10.0	
	国立市	89	37.1	46.1	29.2	25.8	10.1	3.4	1.1	1.1	1.1	14.6	0.0	4.5	3.4	7.9	10.1	9.0	5.6	14.6	
	福生市	89	27.0	41.6	33.7	13.5	12.4	6.7	3.4	3.4	0.0	4.5	1.1	5.6	4.5	14.6	24.7	23.6	4.5	16.9	
	東大和市	89	41.6	59.6	27.0	22.5	14.6	4.5	5.6	6.7	1.1	6.7	1.1	5.6	2.2	15.7	11.2	16.9	2.2	11.2	
	多摩市	89	47.2	49.4	24.7	20.2	11.2	9.0	1.1	0.0	0.0	6.7	0.0	6.7	4.5	11.2	12.4	16.9	4.5	15.7	
	羽村市	89	53.9	51.7	37.1	23.6	16.9	13.5	5.6	7.9	3.4	9.0	2.2	15.7	14.6	27.0	18.0	20.2	2.2	7.9	
	新宿区	90	20.0	65.6	56.7	18.9	26.7	4.4	0.0	4.4	1.1	12.2	1.1	2.2	2.2	10.0	7.8	10.0	1.1	11.1	
	世田谷区	90	34.4	56.7	46.7	25.6	22.2	10.0	1.1	3.3	1.1	10.0	1.1	8.9	10.0	15.6	15.6	11.1	0.0	10.0	
	渋谷区	89	28.1	58.4	48.3	31.5	21.3	6.7	7.9	9.0	0.0	20.2	2.2	6.7	7.9	10.1	16.9	10.1	2.2	4.5	
	中野区	89	15.7	58.4	50.6	20.2	19.1	3.4	3.4	3.4	1.1	5.6	4.5	5.6	7.9	10.1	16.9	5.6	2.2	14.6	
	杉並区	89	29.2	55.1	48.3	25.8	15.7	5.6	5.6	5.6	2.2	14.6	1.1	3.4	5.6	13.5	10.1	15.7	3.4	14.6	
	相模原市(中央区・南区)	90	28.9	46.7	33.3	17.8	20.0	10.0	4.4	6.7	3.3	5.6	2.2	10.0	4.4	7.8	10.0	24.4	2.2	15.6	
	大月市	31	48.4	32.3	22.6	9.7	25.8	9.7	0.0	0.0	0.0	3.2	3.2	0.0	0.0	16.1	6.5	19.4	0.0	9.7	

※30歳未満は18～29歳

表 18 現在の居住地の定住意向の回答理由の内、住み続けたい理由
 <年代・居住地別> (n=1,192)

		n	自然環境	買い物などの生活環境	通勤通学の利便性	道路や街並みなどの整備	医療体制	福祉サービス	保育園、学童クラブ等の体制	子育てに関する補助、助成制度	子育てに関する相談体制	教育・文化環境	開業・就業等の支援体制	ごみの減量化やリサイクルなど環境対策	防災・減災体制	地域の人間関係	家賃・地価	家族・親族の事情	その他	特にない
全体		1192	49.6	70.6	47.7	29.8	21.8	7.4	3.9	4.1	1.3	11.4	1.2	11.1	8.2	16.5	10.2	12.5	1.5	5.5
性別	男性	618	50.2	68.6	47.7	27.7	20.7	6.8	4.4	3.9	1.0	11.7	1.5	10.5	9.1	16.7	10.4	11.2	1.1	6.3
	女性	574	49.0	72.6	47.7	32.1	23.0	8.0	3.3	4.4	1.6	11.1	0.9	11.7	7.3	16.4	9.9	13.9	1.9	4.5
年代	30歳未満※	142	39.4	69.0	65.5	31.0	11.3	4.9	3.5	7.7	3.5	12.7	2.1	4.9	5.6	15.5	15.5	11.3	1.4	8.5
	30歳代	246	52.0	64.2	52.8	26.4	13.0	5.3	7.3	6.9	2.0	8.1	1.2	1.6	3.3	12.6	13.4	12.2	1.2	4.5
	40歳代	248	45.2	71.0	53.2	29.0	14.9	3.2	4.0	4.8	1.2	8.1	0.8	7.7	5.6	11.3	10.9	13.7	1.6	5.2
	50歳代	264	47.7	72.0	46.2	28.4	17.4	7.6	1.9	2.3	0.8	11.4	1.1	12.1	8.3	16.7	9.5	11.0	1.1	6.8
	60歳代以上	292	57.9	75.0	31.5	33.9	44.2	13.7	2.7	1.0	0.0	16.4	1.0	24.0	15.8	24.7	4.8	13.7	2.1	3.8
居住地	八王子市	41	73.2	73.2	41.5	29.3	26.8	7.3	0.0	4.9	0.0	4.9	0.0	7.3	9.8	17.1	4.9	12.2	2.4	2.4
	立川市	49	34.7	77.6	38.8	36.7	24.5	10.2	4.1	0.0	0.0	6.1	0.0	8.2	12.2	16.3	18.4	10.2	0.0	6.1
	武蔵野市	61	54.1	83.6	54.1	39.3	29.5	13.1	3.3	3.3	0.0	14.8	0.0	21.3	9.8	13.1	3.3	9.8	1.6	1.6
	三鷹市	53	54.7	64.2	58.5	26.4	26.4	3.8	5.7	3.8	0.0	13.2	1.9	7.5	9.4	11.3	3.8	7.5	3.8	7.5
	青梅市	48	72.9	60.4	35.4	29.2	29.2	4.2	4.2	4.2	4.2	8.3	4.2	6.3	10.4	27.1	22.9	25.0	2.1	8.3
	府中市	65	56.9	66.2	47.7	46.2	35.4	26.2	6.2	10.8	4.6	21.5	4.6	21.5	15.4	18.5	10.8	10.8	3.1	4.6
	昭島市	51	56.9	66.7	37.3	21.6	3.9	2.0	5.9	2.0	0.0	7.8	0.0	7.8	3.9	11.8	9.8	3.9	3.9	9.8
	調布市	52	50.0	80.8	51.9	26.9	21.2	5.8	1.9	1.9	1.9	11.5	0.0	28.8	5.8	21.2	9.6	19.2	0.0	3.8
	町田市	51	54.9	56.9	37.3	17.6	15.7	2.0	3.9	5.9	2.0	3.9	2.0	5.9	5.9	15.7	9.8	11.8	2.0	7.8
	小金井市	52	59.6	57.7	55.8	13.5	7.7	1.9	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	5.8	0.0	13.5	1.9	13.5	1.9	1.9
	国分寺市	59	49.2	62.7	35.6	18.6	6.8	0.0	3.4	1.7	1.7	11.9	0.0	13.6	8.5	13.6	11.9	8.5	3.4	6.8
	国立市	51	58.8	66.7	27.5	45.1	13.7	2.0	2.0	0.0	2.0	25.5	0.0	3.9	3.9	13.7	7.8	7.8	3.9	3.9
	福生市	41	51.2	68.3	43.9	22.0	19.5	9.8	7.3	7.3	0.0	2.4	2.4	12.2	7.3	22.0	22.0	29.3	0.0	7.3
	東大和市	52	65.4	80.8	32.7	25.0	17.3	3.8	5.8	5.8	0.0	7.7	0.0	7.7	3.8	19.2	13.5	11.5	0.0	5.8
	多摩市	53	71.7	69.8	32.1	32.1	11.3	7.5	1.9	0.0	0.0	11.3	0.0	11.3	5.7	15.1	11.3	15.1	1.9	7.5
	羽村市	58	75.9	67.2	36.2	34.5	20.7	17.2	8.6	8.6	5.2	10.3	1.7	24.1	22.4	37.9	15.5	22.4	0.0	3.4
	新宿区	60	10.0	83.3	75.0	23.3	40.0	5.0	0.0	3.3	0.0	13.3	0.0	3.3	3.3	10.0	5.0	10.0	0.0	3.3
	世田谷区	59	39.0	74.6	59.3	32.2	25.4	8.5	0.0	1.7	0.0	11.9	0.0	10.2	10.2	20.3	6.8	11.9	0.0	1.7
	渋谷区	60	25.0	76.7	68.3	45.0	30.0	10.0	10.0	13.3	0.0	20.0	1.7	8.3	10.0	11.7	5.0	5.0	0.0	1.7
	中野区	61	18.0	73.8	65.6	27.9	27.9	4.9	3.3	3.3	0.0	8.2	3.3	8.2	9.8	14.8	14.8	4.9	0.0	6.6
杉並区	55	27.3	76.4	67.3	38.2	20.0	3.6	3.6	1.8	0.0	14.5	0.0	3.6	5.5	16.4	9.1	14.5	3.6	7.3	
相模原市(中央区・南区)	46	41.3	76.1	39.1	23.9	26.1	8.7	4.3	6.5	6.5	8.7	4.3	15.2	6.5	4.3	10.9	17.4	0.0	8.7	
大月市	14	78.6	14.3	21.4	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	7.1	14.3	0.0	21.4	

※30歳未満は18～29歳

表 19 現在の居住地の定住意向の回答理由の内、他所へ移りたい理由
 <性別・年代別> (n=227)

	n	自然環境	買い物などの生活環境	通勤通学の利便性	道路や街並みなどの整備	医療体制	福祉サービス	保育園、学童クラブ等の体制	子育てに関する補助、助成	子育てに関する相談体制	教育・文化環境	開業・就業等の支援体制	ごみの減量化やリサイクルなど環境対策	防災・減災体制	地域の人間関係	家賃・地価	家族・親族の事情	その他	特にない	
全体	227	22.9	26.0	30.8	9.7	7.5	6.6	4.0	7.0	3.5	9.7	4.0	5.7	5.3	7.5	19.4	13.2	7.5	8.4	
性別	男性	108	27.8	30.6	35.2	9.3	9.3	6.5	3.7	5.6	3.7	7.4	5.6	3.7	3.7	8.3	22.2	13.0	5.6	9.3
	女性	119	18.5	21.8	26.9	10.1	5.9	6.7	4.2	8.4	3.4	11.8	2.5	7.6	6.7	6.7	16.8	13.4	9.2	7.6
年代	30歳未満 ※	73	19.2	20.5	42.5	9.6	4.1	5.5	5.5	9.6	5.5	11.0	5.5	8.2	1.4	8.2	21.9	12.3	2.7	9.6
	30歳代	58	24.1	31.0	34.5	5.2	5.2	5.2	10.3	3.4	12.1	1.7	5.2	6.9	5.2	20.7	5.2	5.2	8.6	
	40歳代	44	27.3	22.7	25.0	13.6	9.1	0.0	0.0	4.5	2.3	6.8	4.5	4.5	9.1	20.5	18.2	11.4	9.1	
	50歳代	30	16.7	33.3	16.7	10.0	13.3	13.3	3.3	3.3	3.3	10.0	6.7	6.7	3.3	3.3	13.3	23.3	10.0	6.7
	60歳代以上	22	31.8	27.3	13.6	13.6	13.6	18.2	4.5	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	18.2	13.6	13.6	13.6	18.2	4.5

※30歳未満は18～29歳

【調査結果から分かったこと】

- ①年代が上がるにつれて定住志向が強まることから、定住施策に関しては40歳代以下の年代（特に30歳未満）を主なターゲットとする必要がある。主にPRする項目は自然環境、買い物などの生活環境、通勤通学の利便性、そして家賃・地価が考えられる。また、50歳代以上をターゲットとする場合は、40歳代へ向けた項目に加えて、医療・福祉、防災・減災や地域の人間関係の良さもPRしていく。
- ②自然環境、買い物などの生活環境、通勤通学の利便性に対するPRをすることで、移住の計画を考えている方や、やむを得ない事情で済み続ける方に対して訴求する効果があると考えられる。
- ③区部在住の方々へ向けては自然環境をPRしていく。
- ④多摩地域在住の方々へ向けては交通利便性をPRしていく。特に中央線を除くJR線、京王線(府中市より西側)沿線に向けては効果的なPRとなる可能性がある。
- ⑤買い物などの生活環境はほとんどの地域で年代・居住地を問わず重視されることから、PRする際は外さずに生活環境の良さを漏れなく行う必要がある。

Q7 日野市の印象について（複数回答）

- 50%以上の印象を与える項目がなかった。
- 「新選組のふるさと」が最も多く、31.7%であった。
- 次いで「田舎」が21.6%、「住宅地」が21.4%であった。
- 性別でみた場合、男女とも「新選組のふるさと」という印象が1番で、2番目に関しては、男性が「住宅地」、女性が「田舎」となった。
- 年代が高くなるにつれて、「新選組のふるさと」及び「住宅地」という認識が強いが、30歳代以下は「田舎」という認識が強い。
- 居住地別でみた場合、「新選組のふるさと」の印象は、国立市と八王子市は50%を超えていた。対して日野市から離れた地域ではその印象が低く、新選組に縁がある調布市でも同様に低かった。
- 日野市より区寄りの市や区部では、「田舎」という印象が他の市より高い。
- 区部と相模原市、大月市は、日野市のことを知らない割合が20%を超えている。
- その他の回答として、「自動車関連」（17件）、多摩動物公園（7件）などがあつた。

表 20 日野市の印象について (n=2,000)

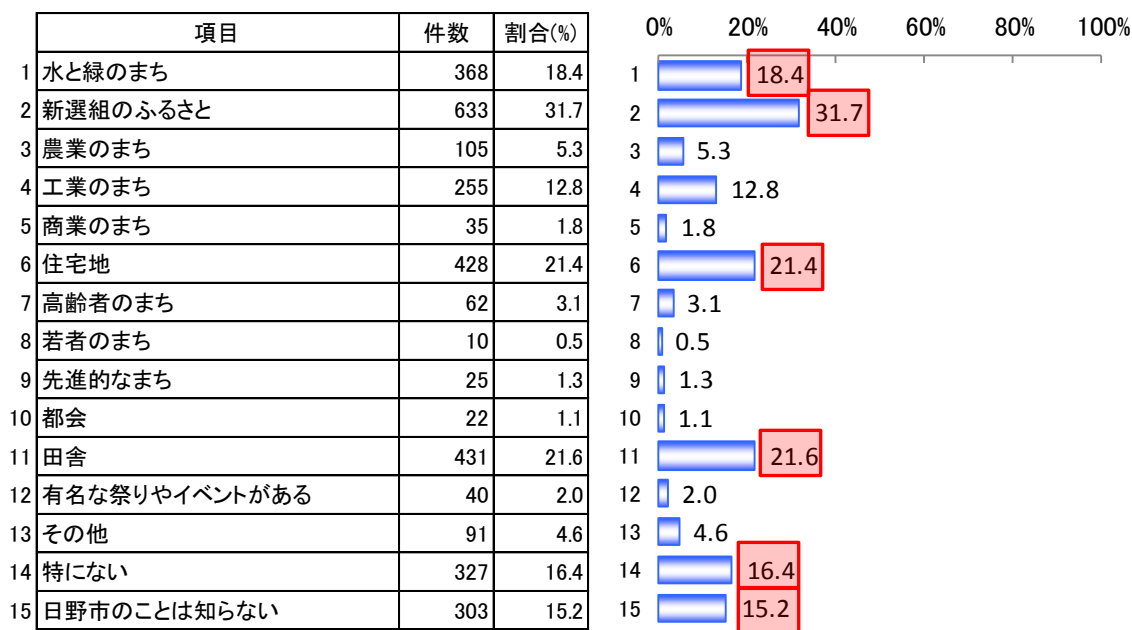


図 7 日野市の印象について (n=2,000)

表 21 日野市の印象について<性別・年代・居住地別> (n=2,000)

		n	水と緑のまち	新選組のふるさと	農業のまち	工業のまち	商業のまち	住宅地	高齢者のまち	若者のまち	先進的なまち	都会	田舎	有名な祭りやイベントがある	その他	特にない	日野市のことは知らない
全体		2000	18.4	31.7	5.3	12.8	1.8	21.4	3.1	0.5	1.3	1.1	21.6	2.0	4.6	16.4	15.2
性別	男性	1006	19.4	31.7	6.1	16.4	2.1	23.4	3.1	0.6	1.2	1.4	19.1	2.5	5.1	16.6	13.4
	女性	994	17.4	31.6	4.4	9.1	1.4	19.4	3.1	0.4	1.3	0.8	24.0	1.5	4.0	16.1	16.9
年代	30歳未満 ※	312	21.2	23.7	6.1	10.3	2.9	19.6	5.4	1.3	2.6	2.2	29.2	2.9	3.5	14.4	18.9
	30歳代	434	18.7	28.3	3.0	13.1	0.9	18.4	4.8	0.5	0.2	1.2	26.0	1.2	4.6	15.9	13.1
	40歳代	430	14.7	29.8	4.2	14.9	1.9	20.7	0.9	0.2	1.2	0.5	19.8	1.4	5.6	18.6	13.7
	50歳代	425	14.4	32.9	3.1	7.3	1.4	20.0	1.4	0.5	0.5	0.9	19.3	1.2	4.2	18.8	16.2
	60歳代以上	399	24.3	42.1	10.5	17.8	2.0	28.3	3.5	0.3	2.3	1.0	15.0	3.8	4.5	13.3	14.8
居住地	八王子市	90	20.0	52.2	2.2	14.4	1.1	27.8	1.1	1.1	2.2	1.1	15.6	1.1	4.4	16.7	2.2
	立川市	90	18.9	43.3	4.4	16.7	2.2	26.7	1.1	3.3	2.2	2.2	14.4	2.2	5.6	14.4	8.9
	武蔵野市	90	21.1	21.1	10.0	14.4	0.0	20.0	11.1	0.0	1.1	0.0	26.7	0.0	5.6	15.6	18.9
	三鷹市	90	26.7	23.3	10.0	14.4	1.1	32.2	3.3	0.0	1.1	1.1	21.1	2.2	3.3	15.6	11.1
	青梅市	89	28.1	37.1	3.4	14.6	4.5	27.0	3.4	0.0	3.4	2.2	14.6	3.4	4.5	18.0	11.2
	府中市	90	15.6	45.6	6.7	7.8	2.2	17.8	3.3	0.0	0.0	1.1	27.8	2.2	5.6	16.7	10.0
	昭島市	89	15.7	43.8	5.6	15.7	2.2	16.9	2.2	1.1	0.0	0.0	13.5	1.1	4.5	22.5	6.7
	調布市	90	17.8	18.9	3.3	14.4	0.0	23.3	2.2	0.0	1.1	0.0	25.6	2.2	2.2	22.2	14.4
	町田市	90	15.6	20.0	5.6	8.9	1.1	21.1	3.3	1.1	1.1	1.1	23.3	1.1	5.6	21.1	18.9
	小金井市	89	22.5	34.8	3.4	9.0	2.2	16.9	4.5	0.0	1.1	0.0	23.6	2.2	6.7	13.5	12.4
	国分寺市	90	20.0	35.6	7.8	13.3	0.0	20.0	2.2	0.0	0.0	0.0	31.1	1.1	2.2	11.1	8.9
	国立市	89	21.3	55.1	9.0	12.4	0.0	24.7	0.0	1.1	0.0	0.0	27.0	5.6	5.6	11.2	6.7
	福生市	89	12.4	42.7	2.2	20.2	4.5	23.6	3.4	0.0	2.2	1.1	12.4	2.2	6.7	14.6	12.4
	東大和市	89	18.0	41.6	4.5	15.7	0.0	20.2	1.1	0.0	0.0	0.0	14.6	1.1	5.6	12.4	14.6
	多摩市	89	13.5	44.9	5.6	12.4	1.1	18.0	7.9	0.0	0.0	0.0	21.3	3.4	9.0	22.5	5.6
	羽村市	89	14.6	48.3	6.7	28.1	3.4	28.1	0.0	0.0	2.2	3.4	7.9	1.1	9.0	13.5	3.4
	新宿区	90	17.8	12.2	4.4	10.0	2.2	18.9	3.3	1.1	1.1	1.1	25.6	2.2	4.4	12.2	33.3
	世田谷区	90	15.6	16.7	5.6	12.2	3.3	13.3	3.3	1.1	1.1	2.2	25.6	0.0	3.3	11.1	30.0
	渋谷区	89	13.5	11.2	3.4	4.5	2.2	12.4	1.1	0.0	2.2	1.1	24.7	1.1	0.0	23.6	25.8
	中野区	89	22.5	13.5	1.1	3.4	0.0	20.2	1.1	0.0	1.1	1.1	31.5	2.2	3.4	13.5	25.8
杉並区	89	21.3	19.1	5.6	3.4	1.1	23.6	6.7	0.0	1.1	2.2	34.8	4.5	0.0	13.5	24.7	
相模原市(中央区・南区)	90	13.3	18.9	3.3	11.1	3.3	17.8	3.3	1.1	2.2	3.3	16.7	2.2	3.3	24.4	24.4	
大月市	31	16.1	22.6	9.7	22.6	3.2	22.6	0.0	0.0	3.2	0.0	6.5	0.0	3.2	16.1	22.6	

※30歳未満は18~29歳

表 22 日野市の印象について<その他の回答>

Q7	日野市と聞いてどんな印象をお持ちになりますか。(いくつでも)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日野自動車、トラック他日野自動車関連 (17件) ・ 高幡不動尊 (13件) ・ 多摩動物公園 (7件) ・ 環境対策、ごみ対策 (5件) ・ 鉄道関連 (5件) ・ 新選組 (5件) ・ 大学 (4件) ・ 図書館 (図書館戦争) (3件) 他
----	--------------------------------	--

【調査結果から分かったこと】

- ①日野市を知らない割合が多かった区部、相模原市、大月市に対しては日野市自体の認知度を上げるPRが必要である。
- ②項目別でみた場合、「新選組のふるさと」の認知度が1番高かったことから、「新選組のふるさと」を大きくPRしていく(キャッチコピーに使うなど)ことが日野市の認知度向上に大きく貢献すると考えられる。但し、年代別でみた場合、40歳代以下は30%を下回り、居住地別では日野市から離れた地域でその印象が低いため、それらの世代や地域へPRを重点的に行う必要がある。
- ③30歳代以下、及び日野市より区寄りの市や区部では「田舎」という印象が高くなる傾向があるため、日野市より区寄りの市や区部の30歳代以下へ向けてこの特性を考慮してPRを行う必要がある。

Q8～11 日野市の生活環境の印象について（複数回答）

- 全ての回答で日野市の生活環境の印象については「わからない」が最も多くなっている。
- 「わからない」を除いた回答では、「普通」が高くなっている。
- 「公園」が多いと回答した方が全体の10%を超えている。
- 「外国との交流」や「道路の整備」、「交通の利便性」、「商業施設」については、不足している（悪い・少ない）が高くなっている。

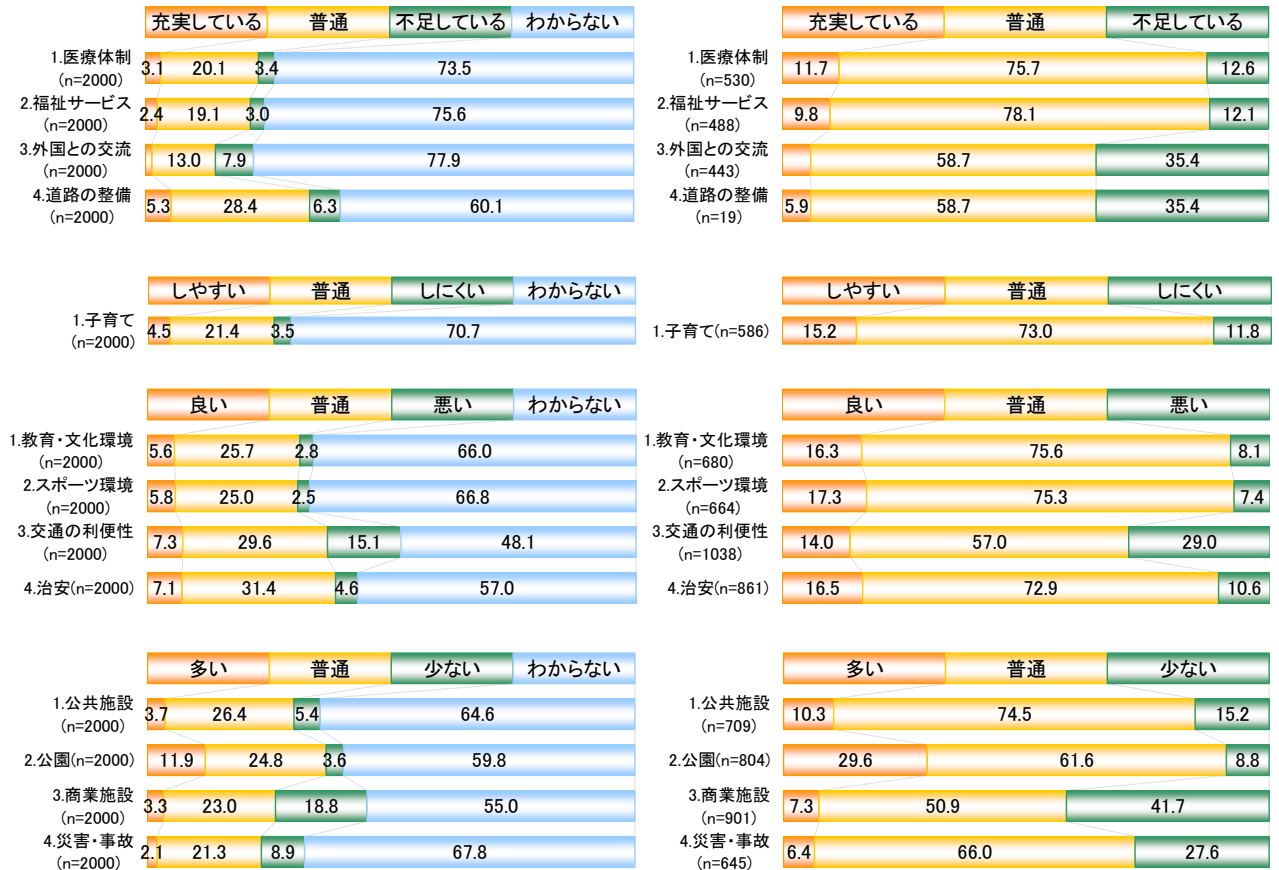


図8 日野市の生活環境の印象について
 (左) 全選択肢を表示 (n=2,000)
 (右) 「わからない」という選択肢を除いた回答数で表示

【調査結果から分かったこと】

- ① 他市や区在住者から見て不足していると捉えられている、「外国との交流」、「道路の整備」、「交通の利便性」、「商業施設」の内、他市へPRできるものについては積極的にPRを行い、良い印象を抱いてもらう必要がある。また、なぜそのような捉えられるのかの分析も行い、対策を立てる必要がある。
- ② 「公園」に関しては他の項目より突出して良い印象があるため、PRする素材として好適だと考えられる。
- ③ 日野市の生活環境について知られていないことが分かったので、メディア露出、イベントや交通広告などでPRを行い、認知度向上を図る必要がある。

Q12、13 住むまちとして日野市をどう思うか（択一回答）と理由（複数回答）

- ・住むまちとしては、「よくわからないので決められない」が最も多く 60.9%であった。
- ・「住んでみたいと思わない」が 30.1%で次いで多かった。理由としては、「通勤通学の利便性」と「買い物などの生活環境」が多かった。
- ・年代別でみた場合、年代が高くなるほど「住んでみたいと思う」傾向が低い。
- ・同様に「住んでみたい」と回答した人の内年代別でみた場合、50歳代以下の方は「通勤通学の利便性」や「家賃」を、60歳代以上は「自然環境」、「買い物などの生活環境」等に好印象を持っている。
- ・地域別では、八王子市と大月市が「住んでみたいと思う」が 20%を超えていた。理由としては、八王子市は「自然環境」、「買い物などの生活環境」、「通勤通学の利便性」が上位を占め、大月市は「買い物などの生活環境」、「通勤通学の利便性」の他に、「医療体制」が上位を占めた。
- ・区部は、全ての区で「住んでみたいと思う」が 10%以下であった。

表 23 住むまちとして日野市をどう思うか (n=2,000)

項目	件数	割合(%)
1 住んでみたいと思う	181	9.1
2 住んでみたいと思わない	601	30.1
3 よくわからないので決められない	1,218	60.9
合計	2,000	100.0

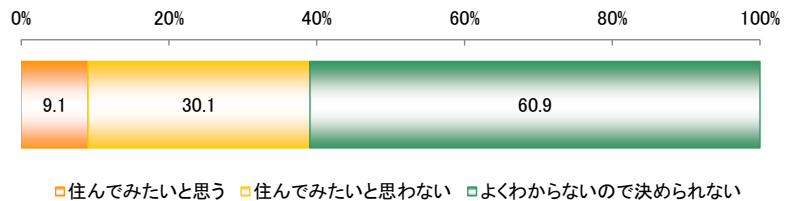


図 9 住むまちとして日野市をどう思うか (n=2,000)

(右側) 表 24
住むまちとして日野市をどう思うかの回答理由

	住んでみたいと思う (n=181)		住んでみたいと思わない (n=601)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
自然環境	118	65.2	27	4.5
買い物などの生活環境	73	40.3	178	29.6
通勤通学の利便性	66	36.5	295	49.1
道路や街並みなどの整備	46	25.4	55	9.2
医療体制	15	8.3	43	7.2
福祉サービス	12	6.6	19	3.2
保育園、学童クラブ等の体制	11	6.1	9	1.5
子育てに関する補助、助成制度	5	2.8	8	1.3
子育てに関する相談体制	4	2.2	7	1.2
教育・文化環境	18	9.9	33	5.5
開業・就業等の支援体制	4	2.2	8	1.3
ごみの減量化やリサイクルなど環境対策	7	3.9	12	2.0
防災・減災体制	10	5.5	16	2.7
地域の人間関係	5	2.8	36	6.0
家賃・地価	38	21.0	19	3.2
家族・親族の事情	15	8.3	44	7.3
その他	5	2.8	73	12.1
特になし	4	2.2	133	22.1

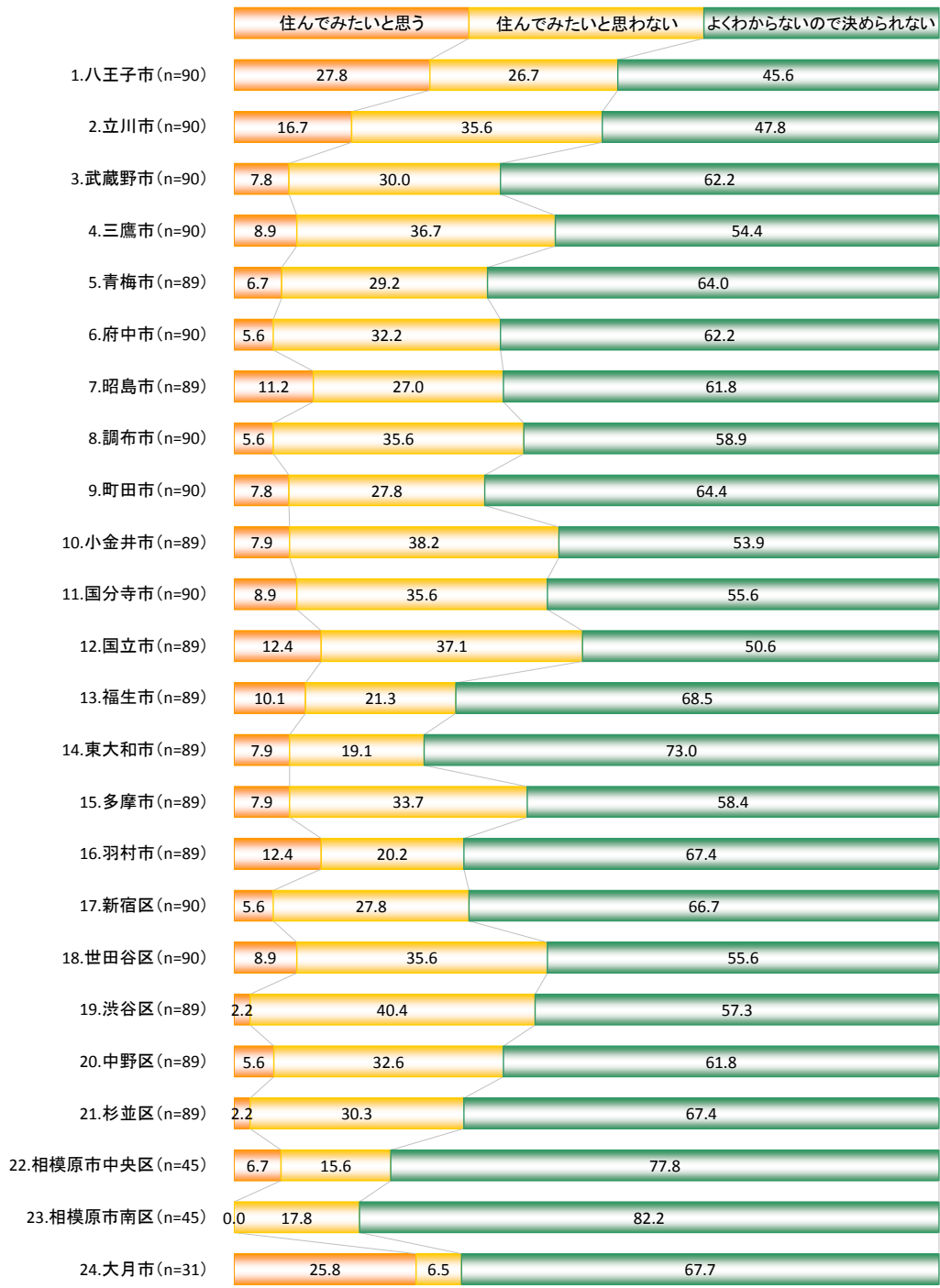


図 10 住むまちとして日野市をどう思うか（居住地別）

表 25 住むまちとして日野市をどう思うか (n=2,000)

		n	住 ん で み た い と 思 う	住 ん で み た い と 思 わ な い	よ く わ か ら な い の で 決 め ら れ な い
全体		2000	9.1	30.1	60.9
性別	男性	1006	10.1	27.5	62.3
	女性	994	7.9	32.6	59.5
年代	30歳未満 ※	312	12.2	28.2	59.6
	30歳代	434	11.3	31.8	56.9
	40歳代	430	8.6	30.5	60.9
	50歳代	425	6.6	32.0	61.4
	60歳代以上	399	7.3	27.1	65.7
居住地	八王子市	90	27.8	26.7	45.6
	立川市	90	16.7	35.6	47.8
	武蔵野市	90	7.8	30.0	62.2
	三鷹市	90	8.9	36.7	54.4
	青梅市	89	6.7	29.2	64.0
	府中市	90	5.6	32.2	62.2
	昭島市	89	11.2	27.0	61.8
	調布市	90	5.6	35.6	58.9
	町田市	90	7.8	27.8	64.4
	小金井市	89	7.9	38.2	53.9
	国分寺市	90	8.9	35.6	55.6
	国立市	89	12.4	37.1	50.6
	福生市	89	10.1	21.3	68.5
	東大和市	89	7.9	19.1	73.0
	多摩市	89	7.9	33.7	58.4
	羽村市	89	12.4	20.2	67.4
	新宿区	90	5.6	27.8	66.7
	世田谷区	90	8.9	35.6	55.6
	渋谷区	89	2.2	40.4	57.3
	中野区	89	5.6	32.6	61.8
杉並区	89	2.2	30.3	67.4	
相模原市(中央区・南区)	90	3.3	16.7	80.0	
大月市	31	25.8	6.5	67.7	

※30歳未満は18~29歳

表 26 住むまちとして日野市をどう思うかの回答理由 (n=782)

		n	自然環境	買い物などの生活環境	通勤通学の利便性	道路や街並みなどの整備	医療体制	福祉サービス	制	保育園、学童クラブ等の体制	子育てに関する補助、助成	子育てに関する相談体制	教育・文化環境	開業・就業等の支援体制	ごみの減量化やリサイクルなど環境対策	防災・減災体制	地域の人間関係	家賃・地価	家族・親族の事情	その他	特にな
全体		782	18.5	32.1	46.2	12.9	7.4	4.0	2.6	1.7	1.4	6.5	1.5	2.4	3.3	5.2	7.3	7.5	10.0	17.5	
性別	男性	379	21.9	30.3	44.9	14.5	7.4	4.2	2.9	2.1	1.8	7.7	2.1	3.2	4.2	7.1	9.8	7.7	7.9	17.4	
	女性	403	15.4	33.7	47.4	11.4	7.4	3.7	2.2	1.2	1.0	5.5	1.0	1.7	2.5	3.5	5.0	7.4	11.9	17.6	
年代	30歳未満 ※	126	27.0	36.5	54.8	15.9	5.6	2.4	6.3	2.4	4.0	3.2	2.4	2.4	3.2	7.1	15.1	7.9	5.6	14.3	
	30歳代	187	19.8	31.0	51.3	12.3	3.7	2.7	0.5	1.1	0.5	3.7	0.5	2.7	1.1	4.3	9.1	7.0	8.6	14.4	
	40歳代	168	11.9	25.6	44.6	8.9	5.4	1.8	3.6	3.0	0.6	7.7	1.8	3.0	3.6	3.0	4.8	6.5	13.1	19.6	
	50歳代	164	15.2	29.9	51.2	11.0	11.0	5.5	1.8	1.2	1.8	8.5	2.4	1.8	2.4	5.5	6.7	7.3	7.9	18.9	
	60歳代以上	137	21.2	40.1	27.0	18.2	12.4	8.0	1.5	0.7	0.7	9.5	0.7	2.2	7.3	7.3	1.5	9.5	14.6	20.4	
居住地	八王子市	49	30.6	42.9	44.9	20.4	10.2	2.0	4.1	2.0	0.0	8.2	0.0	4.1	8.2	4.1	6.1	18.4	12.2	6.1	
	立川市	47	25.5	31.9	38.3	19.1	8.5	8.5	2.1	0.0	4.3	8.5	2.1	2.1	4.3	2.1	10.6	8.5	8.5	19.1	
	武蔵野市	34	26.5	32.4	50.0	11.8	8.8	5.9	5.9	0.0	2.9	5.9	0.0	0.0	5.9	14.7	8.8	5.9	11.8	8.8	
	三鷹市	41	14.6	24.4	63.4	4.9	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	4.9	2.4	2.4	4.9	7.3	14.6	9.8	7.3	12.2	
	青梅市	32	21.9	53.1	40.6	18.8	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	6.3	6.3	21.9	
	府中市	34	17.6	26.5	47.1	17.6	14.7	11.8	5.9	2.9	2.9	8.8	0.0	2.9	5.9	11.8	2.9	0.0	17.6	26.5	
	昭島市	34	20.6	26.5	23.5	14.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8	5.9	2.9	0.0	0.0	8.8	5.9	11.8	35.3	
	調布市	37	8.1	35.1	59.5	8.1	5.4	0.0	8.1	2.7	0.0	5.4	2.7	2.7	2.7	8.1	2.7	5.4	5.4	16.2	
	町田市	32	25.0	25.0	31.3	6.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	37.5	
	小金井市	41	17.1	29.3	61.0	9.8	4.9	0.0	0.0	2.4	0.0	4.9	0.0	0.0	2.4	2.4	9.8	4.9	7.3	12.2	
	国分寺市	40	15.0	27.5	52.5	15.0	2.5	5.0	2.5	2.5	2.5	2.5	0.0	2.5	0.0	5.0	7.5	10.0	2.5	22.5	
	国立市	44	20.5	27.3	36.4	13.6	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	6.8	6.8	6.8	13.6	18.2	
	福生市	28	14.3	35.7	35.7	17.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	14.3	7.1	21.4	21.4	
	東大和市	24	16.7	29.2	66.7	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	4.2	0.0	0.0	12.5	8.3	4.2	12.5	
	多摩市	37	24.3	40.5	35.1	13.5	8.1	2.7	0.0	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	5.4	8.1	5.4	10.8	13.5	13.5	
	羽村市	29	24.1	27.6	31.0	20.7	3.4	6.9	3.4	0.0	0.0	10.3	0.0	3.4	6.9	6.9	13.8	3.4	10.3	27.6	
	新宿区	30	23.3	20.0	56.7	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	6.7	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	16.7	13.3		
	世田谷区	40	15.0	17.5	35.0	7.5	10.0	7.5	7.5	2.5	2.5	5.0	0.0	2.5	5.0	5.0	7.5	7.5	12.5	22.5	
	渋谷区	38	5.3	47.4	52.6	15.8	18.4	7.9	2.6	5.3	2.6	15.8	5.3	5.3	7.9	10.5	5.3	7.9	10.5	10.5	
	中野区	34	14.7	26.5	47.1	8.8	8.8	5.9	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	5.9	2.9	5.9	0.0	5.9	8.8	11.8	
	杉並区	29	6.9	41.4	65.5	6.9	10.3	3.4	3.4	6.9	3.4	10.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	10.3	10.3	
	相模原市(中央区・南区)	18	11.1	27.8	50.0	11.1	11.1	16.7	5.6	5.6	5.6	11.1	11.1	5.6	5.6	11.1	5.6	33.3	0.0	11.1	
	大月市	10	20.0	60.0	40.0	20.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	0.0	10.0	

※30歳未満は18~29歳

表 27 住むまちとして日野市をどう思うかの回答理由の内、
住んでみたいと思う理由 (n=181)

		n	自然環境	買い物などの生活環境	通勤通学の利便性	道路や街並みなどの整備	医療体制	福祉サービス	保育園、学童クラブ等の体制	子育てに関する補助、助成	子育てに関する相談体制	教育・文化環境	開業・就業等の支援体制	ごみの減量化やリサイクルなど環境対策	防災・減災体制	地域の人間関係	家賃・地価	家族・親族の事情	その他	特にない
全体		181	65.2	40.3	36.5	25.4	8.3	6.6	6.1	2.8	2.2	9.9	2.2	3.9	5.5	2.8	21.0	8.3	2.8	2.2
性別	男性	102	66.7	42.2	36.3	29.4	9.8	6.9	4.9	2.0	2.0	7.8	2.0	4.9	7.8	2.9	22.5	8.8	1.0	2.0
	女性	79	63.3	38.0	36.7	20.3	6.3	6.3	7.6	3.8	2.5	12.7	2.5	2.5	2.5	2.5	19.0	7.6	5.1	2.5
年代	30歳未満 ※	38	68.4	47.4	57.9	23.7	2.6	2.6	10.5	5.3	5.3	2.6	5.3	2.6	5.3	7.9	36.8	10.5	0.0	0.0
	30歳代	49	65.3	34.7	38.8	26.5	6.1	2.0	2.0	0.0	2.0	4.1	0.0	4.1	2.0	2.0	24.5	6.1	0.0	0.0
	40歳代	37	51.4	29.7	27.0	18.9	5.4	5.4	10.8	5.4	2.7	10.8	2.7	8.1	8.1	2.7	13.5	8.1	8.1	5.4
	50歳代	28	67.9	39.3	32.1	17.9	21.4	10.7	3.6	0.0	0.0	17.9	3.6	0.0	0.0	0.0	25.0	7.1	3.6	0.0
	60歳代以上	29	75.9	55.2	20.7	41.4	10.3	17.2	3.4	3.4	0.0	20.7	0.0	3.4	13.8	0.0	0.0	10.3	3.4	6.9

※30歳未満は18～29歳

【調査結果から分かったこと】

- ①「よくわからないので決められない」と回答した方が約60%いたことから、日野市のPRが不足していることが考えられるため、PRを強化していく必要がある。
- ②「住んでみたいと思わない」と回答した方は約30%いて、その主な理由は「通勤通学の利便性」と「買い物などの生活環境」が挙げられたことから、この2項目への対策を重点的に行い、PRを行う必要がある。
- ③年代が高くなるにつれて、日野市へ住んでみたい傾向が低くなることから、若い世代、特に30歳代以下に向けて定住へ向けたPRを行うことが効果的と考えられる。その際のアピールポイントは、「通勤通学の利便性」及び「家賃」の2つが挙げられる。
- ④日野市へ定住を薦めるPRはまず住む街としての評価をした住民が多かった市（八王子市と大月市）を中心に行い、他の都市に対しては、買い物などの生活環境や通勤通学の利便性が良いことをPRしていくことが考えられる必要がある。八王子市に対しては、自然環境、買い物などの生活環境、通勤通学の利便性を、また大月市へは買い物などの生活環境、通院通学の利便性の他に、医療体制もアピールポイントとする。
- ⑤区部に対しては日野市のPRを通して認知度を上げた上で、住んでみたい人を増やしていく施策を考える必要がある。

Q14 日野市の地域資源・イベントの認知度（複数回答）

- 日野市の地域資源・イベントのなかで認知度が50%を超えているのは、「多摩動物園」と「高幡不動尊」、「京王百草園」の3施設のみであった。
- 次いで「京王れーるランド」、「新選組のふるさと歴史館」、そして「土方歳三資料館」が30%近い認知度であった。
- イベント、キャラクターやご当地グルメは、ほとんど知られていなかった。

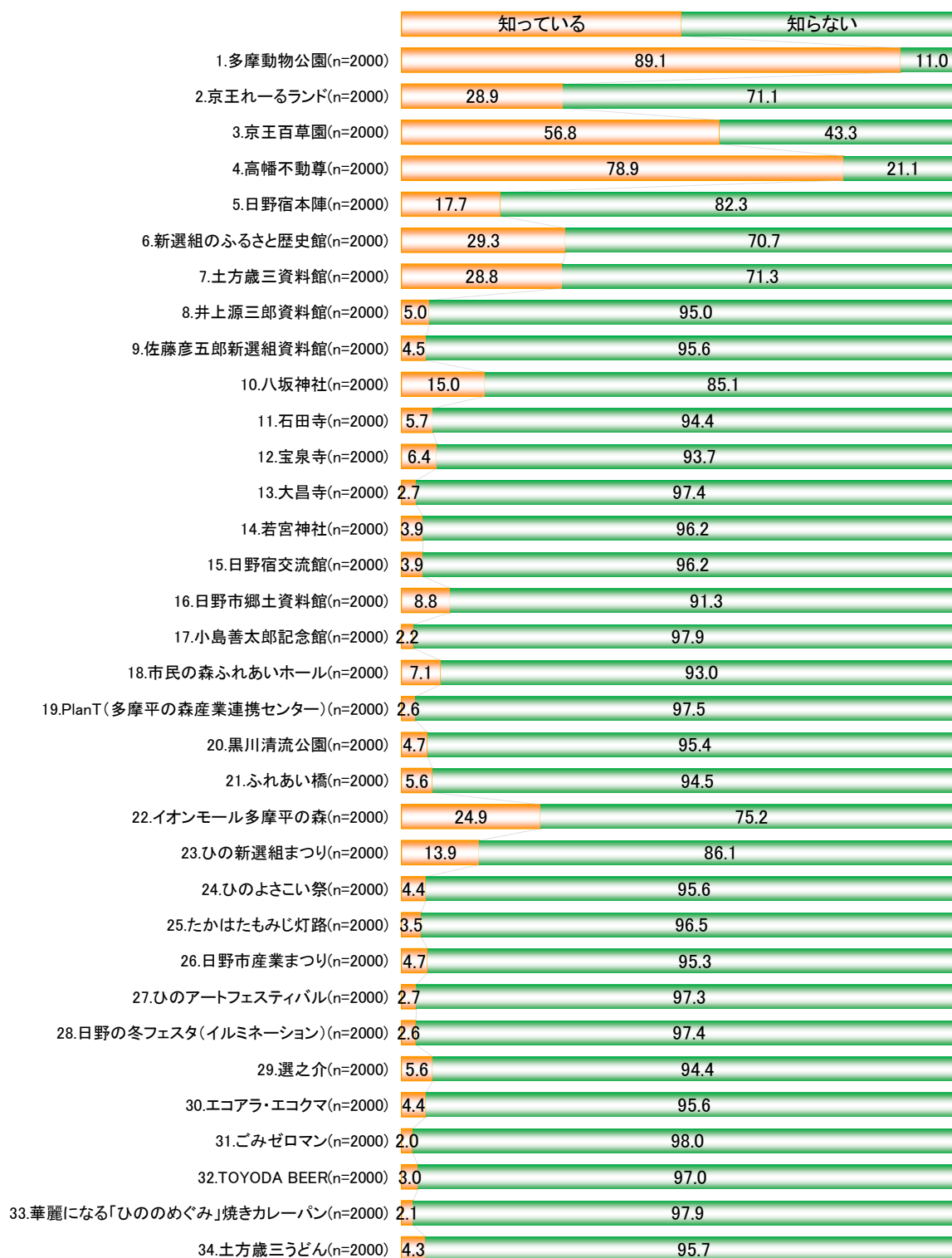


図 11 日野市の地域資源・イベントの認知度

【調査結果から分かったこと】

- ①それぞれが単体でPRすることも必要だが、「多摩動物公園」、「高幡不動尊」、及び「京王百草園」をきっかけとして他の施設やイベント、ご当地グルメも知ってもらう機会を作ることが必要と考えられる。
- ②新選組に関連する施設は、「新選組のふるさと歴史館」と、「土方歳三資料館」をきっかけに他の新選組の施設やイベントの紹介をしていくことが考えられる。
- ③春のイベント「ひの新選組まつり」以降の季節のイベントの認知度が低いため、それらのイベントを重点的にPRする、または新しいイベントを創ることで年間を通して日野市を訪れる方を増やす施策を行うことが考えられる。
- ④イベントに関して認知度から判断すると、日野市民向けとなっていた可能性が高いため、交流人口を増やすという観点からPRを行う必要がある。
- ⑤キャラクターは乱立すると日野市に対する印象が薄くなるため、本アンケート結果で一番高かった「選之介」を利用してPRをしていくことが必要だと考えられる。
- ⑥ご当地グルメに関しては、全般的に認知度が低かったため、目に触れる機会を継続的にかつ今まで以上に作る必要がある。

Q15 (Q14で「知っている」と回答した方のみ)

日野市への来訪の意向 (択一回答)

- Q14で「知っている」、Q15で「行ったことがある」がともに50%を超えている施設は、「多摩動物園」と「高幡不動尊」の2施設であった。
- 「行ったことはないが行ってみたい」は新選組や日野市の歴史にまつわる施設を中心に50%近い値を示した。
- リピーターに繋がる「また行きたい」は最大でも20%台であった
- 前問において高い認知度(56.8%)を示した「京王百草園」に実際「行ったことがある」人は33.6%に留まっている。

選択肢	行ったことがある	行ったことがりまた行きたい	行ったことはないが行ってみたい	行きたいとは思わない
凡例	行ったことがある(合計)		行ったことはない(合計)	
	行ったことがある	行ったことがりまた行きたい	行ったことはないが行ってみたい	行きたいとは思わない
	-	行ってみたい		-
1.多摩動物公園(n=1781)	76.8	18.4	14.1	9.2
	58.3	32.5		-
2.京王れーるランド(n=578)	43.9	11.6	31.5	24.6
	32.4	43.1		-
3.京王百草園(n=1135)	43.3	9.8	37.8	18.9
	33.6	47.6		-
4.高幡不動尊(n=1578)	57.3	13.2	26.6	16.1
	44.0	39.9		-
5.日野宿本陣(n=354)	33.6	7.9	42.9	23.4
	25.7	50.8		-
6.新選組のふるさと歴史館(n=586)	21.8	6.7	52.7	25.4
	15.2	59.4		-
7.土方歳三資料館(n=575)	20.0	5.2	53.9	26.1
	14.8	59.1		-
8.井上源三郎資料館(n=100)	32.0	13.0	51.0	17.0
	19.0	64.0		-
9.佐藤彦五郎新選組資料館(n=89)	32.6	13.5	49.4	18.0
	19.1	62.9		-
10.八坂神社(n=299)	28.1	8.4	46.8	25.1
	19.7	55.2		-
11.石田寺(n=113)	37.2	9.7	40.7	22.1
	27.4	50.4		-
12.宝泉寺(n=127)	40.2	11.8	40.2	19.7
	28.3	52.0		-
13.大昌寺(n=53)	54.7	20.8	35.8	9.4
	34.0	56.6		-
14.若宮神社(n=77)	45.5	16.9	39.0	15.6
	28.6	55.8		-
15.日野宿交流館(n=77)	28.6	10.4	51.9	19.5
	18.2	62.3		-

選択肢	行ったことがある	行ったことがりまた行きたい	行ったことはないが行ってみたい	行きたいとは思わない
凡例	行ったことがある(合計)		行ったことはない(合計)	
	行ったことがある	行ったことがりまた行きたい	行ったことはないが行ってみたい	行きたいとは思わない
	-	行ってみたい	-	-
16.日野市郷土資料館(n=175)	24.6	75.4	15.4	26.3
	9.1	58.3	-	-
17.小島善太郎記念館(n=43)	39.5	60.5	23.3	9.3
	16.3	67.4	-	-
18.市民の森ふれあいホール(n=141)	41.8	58.2	26.2	24.1
	15.6	49.6	-	-
19.PlanT(多摩平の森産業連携センター)(n=51)	33.3	66.7	19.6	15.7
	13.7	64.7	-	-
20.黒川清流公園(n=93)	48.4	51.6	33.3	7.5
	15.1	59.1	-	-
21.ふれあい橋(n=111)	60.4	39.6	41.4	10.8
	18.9	47.7	-	-
22.イオンモール多摩平の森(n=497)	51.3	48.7	33.8	12.9
	17.5	53.3	-	-
23.ひの新選組まつり(n=278)	18.0	82.0	7.6	23.0
	10.4	69.4	-	-
24.ひのよさこい祭(n=88)	27.3	72.7	11.4	19.3
	15.9	69.3	-	-
25.たかはたもみじ灯路(n=70)	40.0	60.0	18.6	11.4
	21.4	70.0	-	-
26.日野市産業まつり(n=94)	31.9	68.1	17.0	21.3
	14.9	61.7	-	-
27.ひのアートフェスティバル(n=54)	27.8	72.2	14.8	20.4
	13.0	64.8	-	-
28.日野の冬フェスタ(イルミネーション)(n=52)	50.0	50.0	25.0	7.7
	25.0	67.3	-	-

図 12 日野市への来訪の意向 (Q14で「知っている」と回答した方のみ)

【調査結果から分かったこと】

- ①新選組や日野市の歴史にまつわる施設については、「行ったことはないが行ってみたい」という割合が多いため、それらをPRすることにより日野市を訪れる人が増える可能性がある。
- ②各施設「また行きたい」と回答した方が低いことから、リピート率を上げるために、分析を行い、対策を実施することが必要である。
- ③前問において、京王百草園の認知度は60%を超えていたが、「行ったことがある」人の数は低いことが分かったため、このような特性を考慮したPRも考えられる。

Q16 (Q14で「知らない」と回答した方のみ)

日野市への来訪の意向 (択一回答)

・行きたいと思わないが全ての施設で70%以上であった。

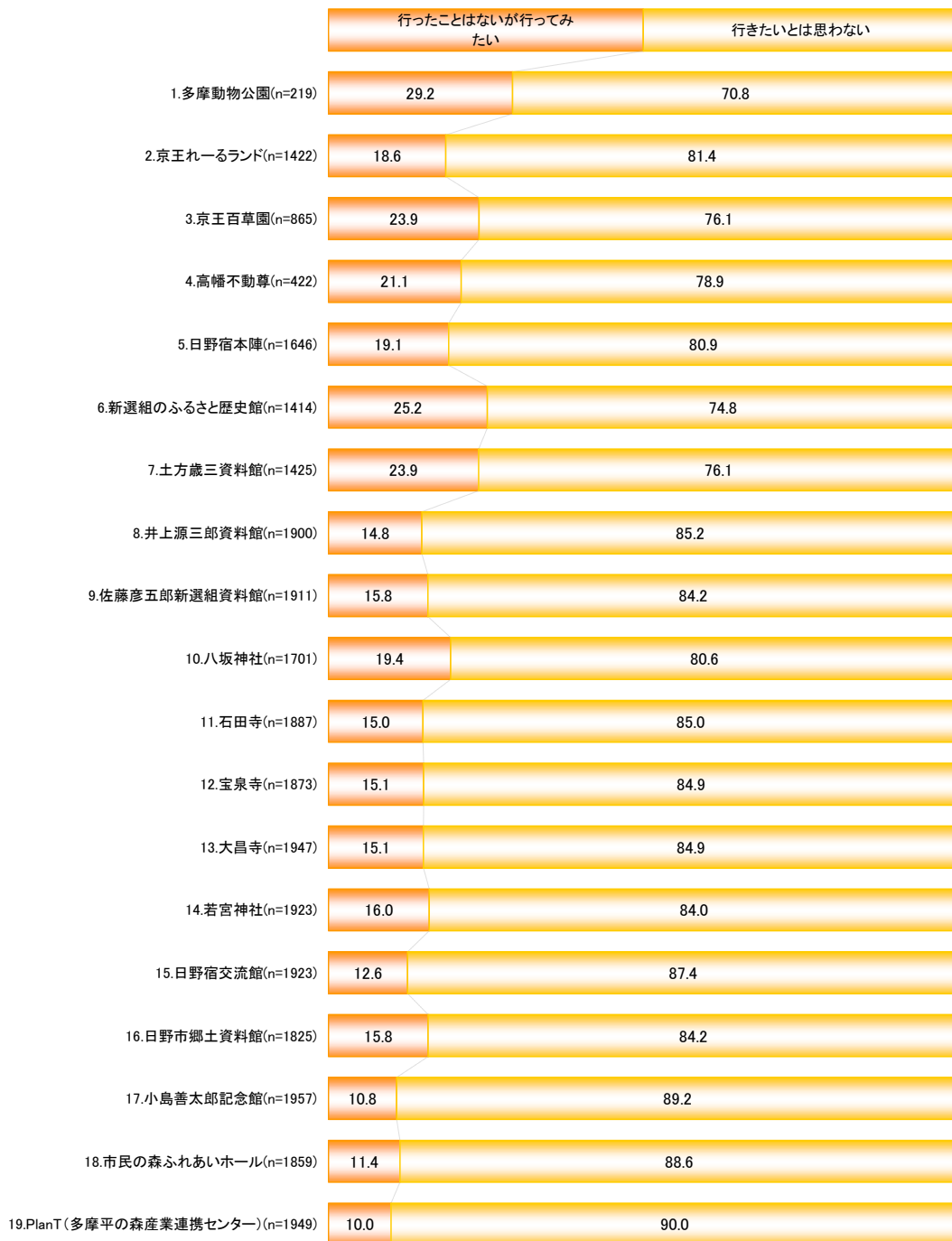


図13 日野市への来訪の意向 (Q14で「知らない」と回答した方のみ)

【調査結果から分かったこと】

①新選組関連施設や動物園などをきっかけに他の施設も紹介し、認知度を上げ、来訪意向を高めていく必要がある。

Q17 先程の項目（Q14）以外であなたが知っている日野市の施設、名所、産品、イベント等を教えてください（ご自由にお書きください）

- ・「日野自動車、トラック他日野自動車関連」が97件あった。
- ・「大学」は32件あった。
- ・「ブルーベリー」（10件）、梨（7件）、饅頭（6件）など食べ物に関する記入もあった。

表 28 Q14 以外で知っている日野市の施設、名所、産品、イベント等

Q17	先程の項目以外であなたが知っている日野市の施設、名所、産品、イベント等を教えてください。（ご自由にお書きください） →「わからない」、「知らない」、「特にない」、「興味ない」を除いた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日野自動車、トラック他日野自動車関連（97件） ・ 大学（32件） ・ 日野駅（15件） ・ ブルーベリー（10件） ・ 多摩テック（8件） ・ 平山城址公園（8件） ・ 角上魚類（8件） ・ 日野税務署（7件） ・ 梨（7件） ・ 饅頭（6件） ・ あじさい関連（6件） ・ コニカミノルタ（6件） ・ カレーパン他パン関連（6件） ・ イオン（5件） <p>他</p>
-----	---	---

【調査結果から分かったこと】

- ①この設問で回答の多かった項目などから選出したものを活用したPRによって日野市の認知度向上に繋げることが考えられる。

Q18 日野市が力を入れるべき事業（複数回答）

- ・力を入れるべき事業は、「歴史や自然、文化などを生かした新たな観光資源の創出」が最も高く26.7%であった。
- ・次いで「観光情報の提供」(19.6%)と「観光PRや売り込み戦略の充実」(19.1%)でPRに関する事業を強化すべきという回答を得た。

表 29 日野市が力を入れるべき事業（n=2,000）

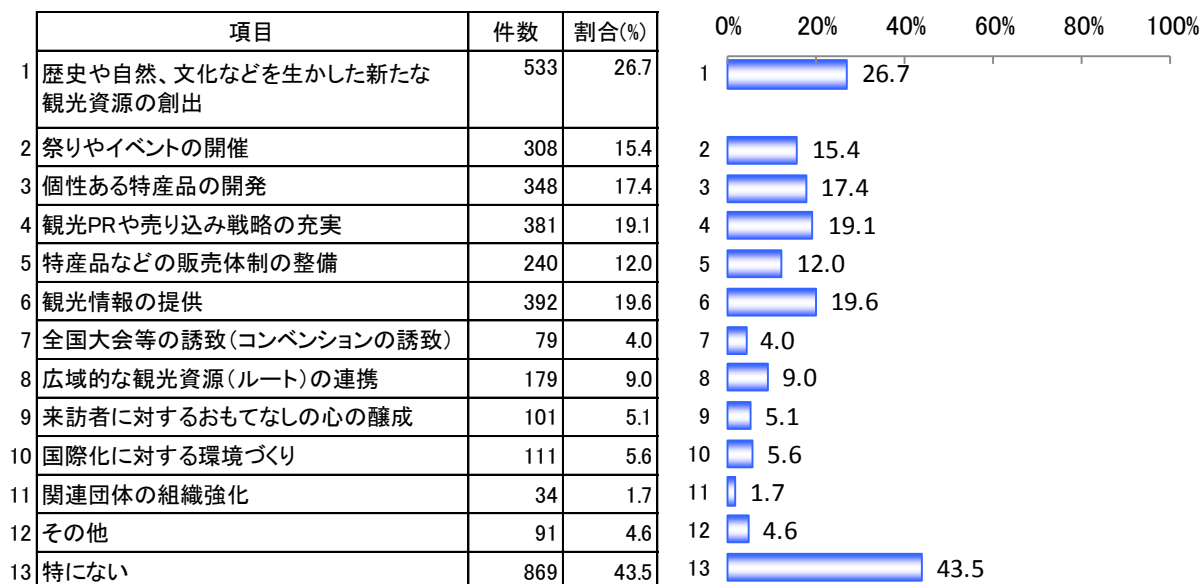


図 14 日野市が力を入れるべき事業（n=2,000）

表 30 日野市が力を入れるべき事業<その他の回答>

Q18	<p>日野市が力を入れるべき事業は何かと思いますか。(いくつでも) →「わからない」、「知らない」、「特にない」、「興味ない」を除いた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の整備 (7 件) ・ 住みやすいまちづくり (6 件) ・ 広報、情報発信 (5 件) ・ 知名度向上 (4 件) ・ 公共交通の整備 (3 件) ・ 移住 (3 件) ・ 企業誘致、製造業支援 (3 件) ・ 駐車場の整備 (2 件) ・ 日野駅前開発 (2 件) <p>他</p>
-----	--	---

【調査結果から分かったこと】

- ①各項目は既に取り組みされているが、そのことに対する認知度が低く、力を入れるべき事業と判断されている可能性もある。新規創出を考えるとともに、既存の資源を詳細に分析し、シティセールスに繋げることで、新たな資源の創出をせず日野市の認知度を上げられると考えられる。
- ②「特産品などの販売体制の強化」に関しては市外や区部のスーパーやコンビニエンスストアで販売してもらいPRに繋げることが考えられる。
- ③「観光情報のPR」に関しては旅行会社や観光協会と連携して日野市をPRしていくことが考えられる。

1-3. 調査結果から分かったこと

本調査結果から分かったこと（6～34頁）の内、日野市にとって重要な項目を抽出したものを下記に示す。

●居住地や観光に関する情報を入手する手段としてはすべての年代で「クチコミ」や「ホームページ」、「テレビ・ラジオ」が多かった。年代別では30歳代以下が「交通広告」、「SNS」を含む「WEB」、60歳代以上が「新聞広告」と、年代によって違う傾向を示した。

※情報を入手する際は年代別に媒体や内容を考慮したプロモーションを展開することが必要と予想される。

●現在の居住地が「住みやすい」という理由として、選択された項目は「買い物などの生活環境」、「通勤通学の利便性」、「自然環境」、「道路や街並みなどの整備」が多かった。

※居住地を決める際はこれらの点を重視することが予想される。

●現在の居住地から他所へ移りたいと考えている人は30歳未満が比較的多く、理由としては「通勤通学の利便性」、「家賃・地価」が多い。

※30歳未満が居住地を決める際は上記2点を重視することが予想される。

●日野市の生活環境の印象、住むまちとしてどう思うかという点については、「わからない」が最多であることから、日野市について知らない人が多いことが分かった。

※「日野市を知ってもらう」PRから始めていくことが重要であると予想される。

●日野市の印象は「新選組のふるさと」が最も多いが、これは隣接する市の住民に多いイメージであり、日野市から離れ区部に近づくほど「田舎」というイメージを持つ人が多くなった。

※情報を発信する地域により、「新選組のふるさと」と「田舎」というイメージを上手に利用していくことが求められる。

●日野市にある施設で認知度が50%を超えているのは「多摩動物公園」、「高幡不動尊」、「京王百草園」の3施設だった。

※日野市の認知度が高くないため、これらの施設が日野市にあることを知らない住民もいることが予想されるが、日野市を知ってもらうきっかけとなることが予想される。

●日野市にある新選組関連の施設については「新選組のふるさと歴史館」と「土方歳三資料館」が30%近い認知度だった

●このほかの施設では「京王れーるランド」が30%近い認知度だった。

●市内のイベントの中では「ひの新選組まつり」が一番認知されており14%近くだった。

※日野市を知ってもらうきっかけとなることが予想される。

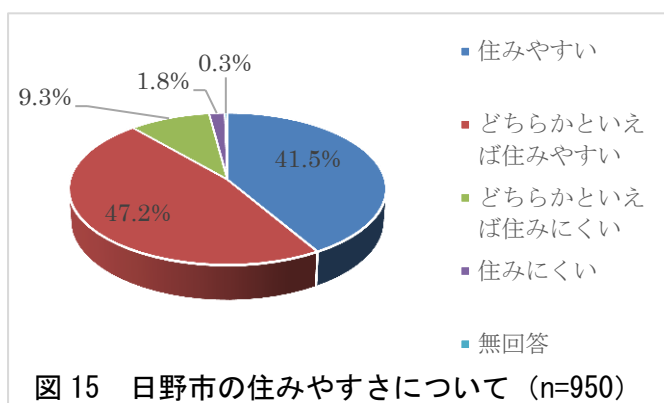
●キャラクターに関しては市外にほとんど認知されていない。

※「日野市を知ってもらう」PRにキャラクターも登場させることから始めていくことが重要であると予想される。

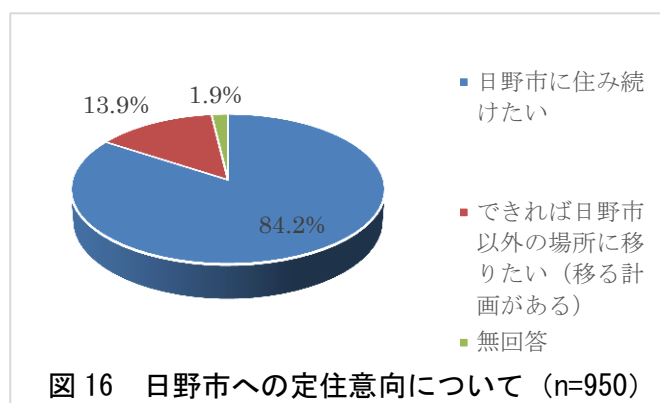
1-4. 参考 日野市市民意識調査報告書(平成28年3月)

- 日野市の住みやすさを尋ねたところ、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた「住みやすい(計)」(88.6%)が9割近くと多数を占めている。一方、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合わせた「住みにくい(計)」(11.1%)は1割ほどとなっている。
- 次に定住意向について尋ねたところ、「日野市に住み続けたい」(84.2%)が8割半ばを占め、「できれば日野市以外の場所に移りたい(移る計画がある)」(13.9%)が1割ほどとなっている。
- また、日野市の良いところについて尋ねたところ、「自然環境が良い(水とみどり、農のある風景など)」(76.3%)が7割半ばと最も多く、次いで「買い物など生活が便利」(33.5%)、「ごみの減量化やリサイクルなど環境対策が充実している」(28.7%)、「通勤や通学に便利」(27.6%)、「道路や町並みなどの生活環境が良い」(21.5%)などの順となっている。

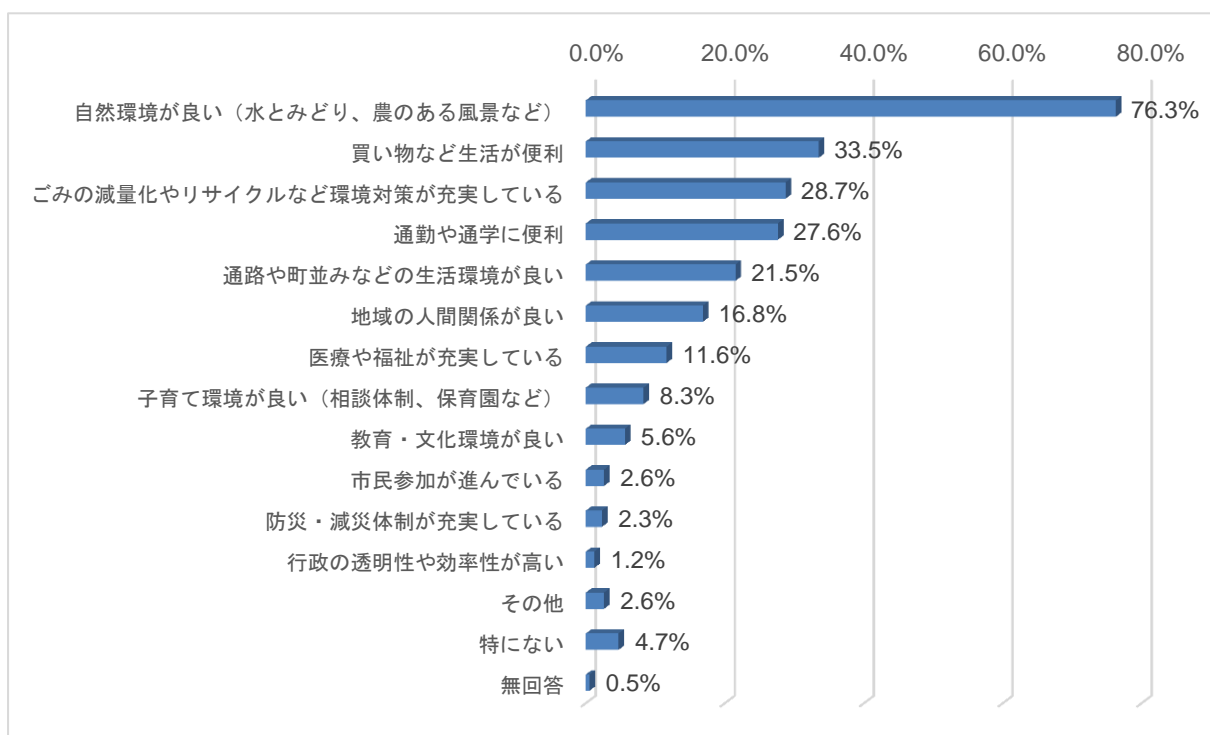
(1) 日野市の住みやすさについて



(2) 定住意向について



(3) 日野市の良いところについて



1-5. 本市の強み・弱みと機会・脅威（SWOT分析）

(1) SWOT分析 市外住民の本市に対するイメージや地域資源の評価・認知の現状や本市が有する各種特性、本市を取り巻く社会経済情勢を踏まえ、SWOT分析（※注2）を行った。なお、詳細な値については省略をしている。

「強み<S>」

- 日野市の印象については「新選組のふるさと」が最も多い(19頁)
- 地域資源の認知度は「多摩動物公園」、「高幡不動尊」、「京王百草園」の3施設が50%を超えている(28頁)
- 市民の9割近くが住みやすさを感じている(日野市市民意識調査より)
- 日野市民が思う日野市の良いところは「自然環境の良さ」である(日野市市民意識調査より)
- 新宿・八王子といった都心部や拠点都市へのアクセスが便利である
- 市街地と自然環境が近接していて自然環境も良い
- 地域産業の支援が充実

「機会<O>」

- 居住地や観光情報に関する情報の入手は「クチコミ」や「ホームページ」、「テレビ・ラジオ」が多く、年代別では30歳代以下が「交通広告」、「SNS」を含む「WEB」、60歳代以上が「新聞広告」という傾向にある。(居住地：5頁、観光：7頁)
- 現在の居住地の住みやすさは立川市より西に行くに従い、「住みやすい」という評価が減る傾向にある。「住みやすい」と評価した理由は区部で「通勤通学の利便性」、市部では「自然環境」と「通勤通学の利便性」が多く、「買い物などの生活環境」は居住地に関わらず多い(10頁)
- 現在の居住地から他所へ移りたいと考えている人は30歳未満が比較的多く、理由としては「通勤・通学の利便性」、「家賃・地価」が多い(10頁)
- 日野市の印象は「新選組のふるさと」が1番多く、2番目に多いのは男性が「居住地」、女性が「田舎」である(19頁)
- 訪日外国人客の増加
- 東京2020大会の開催
- 健康や環境に配慮した生活や自然回帰志向が高まっている
- 体験型観光へのニーズが高まっている

「弱み<W>」

- 日野市の印象について50%以上の印象与えるイメージがなく、「田舎」、「住宅地」がそれぞれ約20%(19頁)
- 「新選組のふるさと」は日野市から離れた地域では印象が低い(19頁)
- 区部と相模原市、大月市は、日野市のことを知らない割合が比較的多い(19頁)
- 日野市の生活環境の印象、住むまちとしてどうかという点については「わからない」が最多(市の施策が伝わっていない)(22頁)
- 日野市のイベント、キャラクターはほとんど知られていない(25頁)
- 日野市外の住民からは「買い物などの生活環境」、「通勤通学の利便性」の評価が低く、日野市民が抱えている印象と異なる(本編22~27頁、35頁)

「脅威<T>」

- 現在の居住地が「住みやすい」「まあまあ住みやすい」という割合が多く、理由としては「買い物などの生活環境」や「通勤通学の利便性」、「自然環境」の順に多い(10頁)
- 東京都心部への居住や大学移転(都心回帰)傾向が見られる
- 周辺都市(八王子、立川、町田など)にデパートやアウトレットなどの大型ショッピングスポットが多く存在する

図18 SWOT分析

凡例
 ●・・・本調査から分かったこと
 ■・・・その他の要因

※2 SWOT分析

本市の強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)を明らかにし、それらを内部要因【強み(Strength)、弱み(Weakness)】と外部要因【機会(Opportunity)、脅威(Threat)】の2軸から分析し、経営戦略を作り上げる手法のこと。SWOTとはこれら4つの頭文字を取ったものである。

(2) SWOTクロス分析

SWOTクロス分析は「強み」、「弱み」、「機会」、「脅威」を「強み×機会」、「強み×脅威」、「弱み×機会」、「弱み×脅威」のようにクロスさせ、対応すべき課題を抽出する方法である。抽出された対応すべき課題は下記のとおりとなり、これらを基に施策を考えていく。

対応すべき課題と具体的な施策例

<強み×機会>

- A 日野市のイメージである「新選組のふるさと」を活用して、効果的な方法でPRし、日野市を訪れるきっかけを作る
→第20回新選組まつりをきっかけにする
- B 市民の9割近くが感じている「住みやすさ」を現在の居住地から移りたいと考えている割合が多い30歳未満の世代にPRする
→日野市民が感じている住みやすさを30歳未満の世代をターゲットにPRしていく

<強み×脅威>

- C 都心部へのアクセスが良く、自然環境も良いというバランスがとれた場所であることをPRする
- D 地域産業の支援に力を入れていることをPRし、企業者や就業者に働く場所として選ばれるまちになる
→PlanT（多摩平の森産業連携センター）の事業内容を一例としてWEBやイベントなどを通して周知することにより、日野市の充実した産業支援をPRする

<弱み×機会>

- E 日野市から離れている地域には先ず日野市を知ってもらう必要がある
→市外からの閲覧を意識したホームページを整備する
→継続的な認知度調査の実施
- F 日野市民が感じている「住みやすさ」を体験できるイベント等を企画する（自然体験、交通の利便性）
→様々な主体と連携し、「住みやすい」日野市をPRできるイベントを企画する

<弱み×脅威>

- G 日常の買い物などの（市内の）生活環境の良さをPRするとともに日野市にはない周辺都市のデパートへも容易にアクセスできることをPRする。

図 19 対応すべき課題から導かれる具体的な施策例

2. 施策展開の基本方針（提案書）

2-1. シティセールス推進の目的

日野市が他都市との競争に埋没せず、“住んで良し、訪れて良し”の「選ばれるまち」となるために、シティセールスが欠かせないと考えられる。日野市では市内外の人々へ向けて日野市の魅力を効果的に発信、新たな魅力の創出に取り組むことで、日野市への関心を高め、市内へ向けては日野市への誇りや愛着の醸成、市外へ向けては認知度の向上、交流人口と定住人口の増加を図ることを目的として、シティセールスを推進する必要がある。

前章では本調査結果を用いて市内の住民と市外の住民が抱えているイメージのずれを明らかにし、本市の価値を見直す(再構築する)作業をした上で、課題の抽出を行った。本章ではシティセールスの方向性を定め、施策の提案を行う。

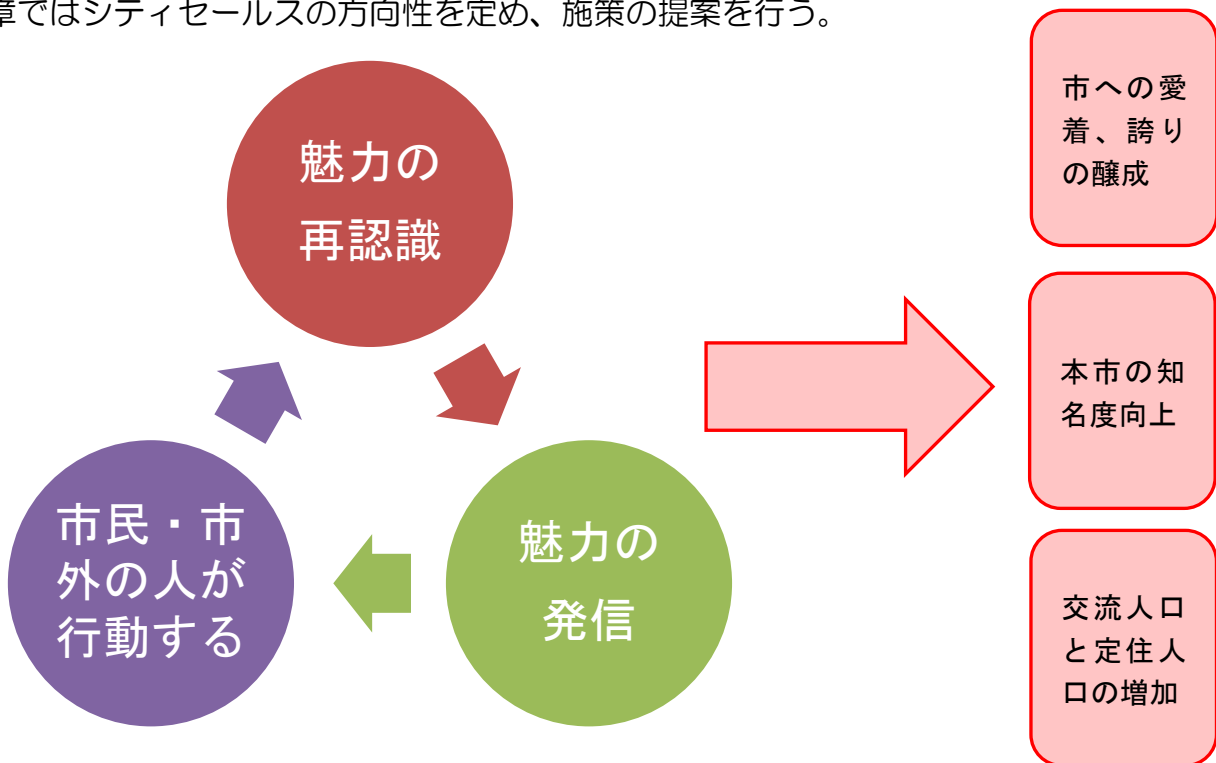


図 20 シティセールスのモデル図

2-2. シティセールスの方向性（基本方針）

シティセールスは日野市民に対しても、効果（住環境が良くなる、愛着や誇りを持つ等）が見込めると考えられる。市民の満足度を上げることは、市民からの魅力の発信、外からの視線を集めることに繋がると考えられる。そのため市内に向けても魅力を発信していく必要がある。

又、本調査によって明らかになった通り、市外の方々の認知度が低い日野市としては、先ず日野市とその魅力を知ってもらうことが必要である。そこで、目的である交流人口と定住人口の増加を図るためには、日野市の魅力である、新選組のふるさとや緑豊かな住環境などを多くの方々に知ってもらい、段階を踏んでステップアップしていくことで、「訪れてみたい」、最終的には「住んでみたい」と思ってもらえる必要がある。

下記図はマインドフロー（※注3）を参考に、ゴールを「定住する」に設定したものである。日野市のことを知らない場合（認知関門で止まっている）は、「広告を出す」、というように段階に応じた施策を行うことが考えられる。

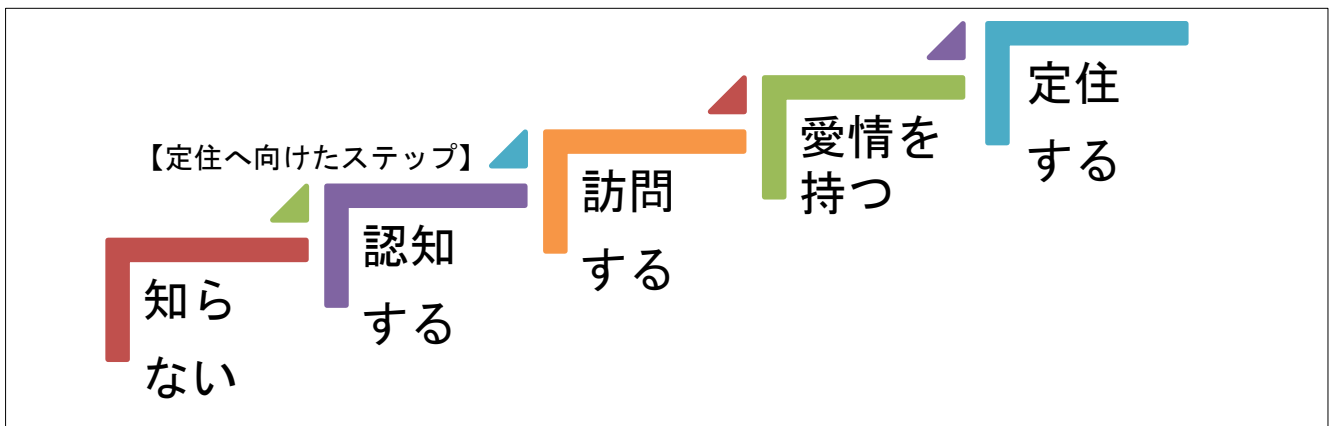


図 21 認知してもらい定住してもらうまでの段階を示した模式図

※3 マインドフロー

顧客の購買行動を認知・興味・行動・比較・購買・利用・愛情という7つの段階に分け、数値化して評価をしていく手法のこと。

2-3. 具体的な施策例

(1) 取り組み案

図19においてまとめた対応すべき課題から導かれる具体的な施策例は下記のとおりである。この内、**A**、**E**、**F**の施策については短期的スパンで実施可能な施策と考えられる。また継続的な調査を引き続き行い、長期的な視野を見据えながら今後の具体的な方針を考えていく必要があると考えられる。

なお、次頁以降の**A**、**E**に関して記載した施策例の内容は、あくまで一例とし、参考であることに留意することとする。また、アンケート調査等既に実施されている項目については、それらを有効に活用していくことを念頭に置く必要があると考えられる。

A新選組まつりをきっかけに日野市の認知度を向上する

B日野市民が感じている住みやすさを30歳未満の世代をターゲットにPRしていく

DPlanT（多摩平の森産業連携センター）の事業内容を一例としてWEBやイベントなどを通して周知することにより、日野市の充実した産業支援をPRする

E市外からの閲覧を意識したホームページを整備する

継続的な認知度調査を実施し、認知度のギャップをさぐる

F様々な主体と連携し、「住みやすい」日野市をPRできるイベントを企画する

表 31 具体的な施策例と効果

	具体的な施策例	効果	頁
A	新選組まつりをきっかけに日野市の認知度を向上する	日野市の認知度向上。交流人口の増加。本調査から参加者の大部分が市民向けになっていたと考えられる本イベントが対外的に拡がる。	42
B	日野市民が感じている住みやすさを30歳未満の世代をターゲットにPRしていく	日野市の認知度向上。日野市民の市に対する愛着の醸成、市民参加の促進。サポーターからの幅広い意見を得ることで様々な角度から日野市の良いところを見つける。	—
D	PlanT（多摩平の森産業連携センター）の事業内容を一例としてWEBやイベントなどを通して周知することにより、日野市の充実した産業支援をPRする	日野市の認知度向上。交流人口の増加。既存イベントの発展。日野市内外の企業のPRの場。	—
E	市外からの閲覧を意識したホームページを作成する	日野市の認知度向上。閲覧数の増加。	43
E	継続的な認知度調査の実施	日野市の認知度向上。日野市職員と市民が抱えているイメージのギャップを知る。職員の意識改革。	44
F	様々な主体と連携し、「住みやすい」日野市をPRできるイベントを企画する	日野市の認知度向上。交流人口の増加。定住人口の増加。学生の日野市に対する愛着の醸成。	—

表 32 具体的な施策例A

具体的な施策例	A新選組まつりをきっかけに日野市の認知度を向上する																							
名称	新選組まつり																							
目的	日野市への定住へ向け30～40歳代をメインターゲットとした、日野市のイメージである「新選組のふるさと」を活用して、効果的な方法でPRし、日野市知ってもらい、訪れるきっかけを作ることを目的とする																							
PR方法	<p>1. 性別、年代、居住地別のPR</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>PR方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">性別</td> <td>男性</td> <td>観光に関する情報は入手しない傾向があるので、女性を意識したつくりにする</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>クチコミ、物産展、催事、アンテナショップ</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">年齢</td> <td>～30歳代</td> <td>交通広告、WEB</td> </tr> <tr> <td>60歳代～</td> <td>新聞広告</td> </tr> <tr> <td>全般</td> <td>クチコミ、ホームページ、テレビ・ラジオ</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地域</td> <td>日野市内</td> <td>座談会開催、日野市応援団サポーター募集→SNSやクチコミに繋げる</td> </tr> <tr> <td>区部</td> <td>新選組まつりの紹介と日野市の概要を知ってもらう内容</td> </tr> <tr> <td>市部</td> <td>新選組まつりの魅力を伝え来訪促進に繋げる内容</td> </tr> </tbody> </table>		項目		PR方法	性別	男性	観光に関する情報は入手しない傾向があるので、女性を意識したつくりにする	女性	クチコミ、物産展、催事、アンテナショップ	年齢	～30歳代	交通広告、WEB	60歳代～	新聞広告	全般	クチコミ、ホームページ、テレビ・ラジオ	地域	日野市内	座談会開催、日野市応援団サポーター募集→SNSやクチコミに繋げる	区部	新選組まつりの紹介と日野市の概要を知ってもらう内容	市部	新選組まつりの魅力を伝え来訪促進に繋げる内容
項目		PR方法																						
性別	男性	観光に関する情報は入手しない傾向があるので、女性を意識したつくりにする																						
	女性	クチコミ、物産展、催事、アンテナショップ																						
年齢	～30歳代	交通広告、WEB																						
	60歳代～	新聞広告																						
	全般	クチコミ、ホームページ、テレビ・ラジオ																						
地域	日野市内	座談会開催、日野市応援団サポーター募集→SNSやクチコミに繋げる																						
	区部	新選組まつりの紹介と日野市の概要を知ってもらう内容																						
	市部	新選組まつりの魅力を伝え来訪促進に繋げる内容																						
主な内容	<p>1. WEBを用いて、ターゲットに日野市をPRする</p> <p>2. 開催</p>																							
事例	<p>1. 愛知県（第31回国民文化祭・あいち2016に合わせた愛知県のPR）</p> <p>○愛知県では国民文化祭の開催に向け、広く県内外に愛知の文化の魅力と国民文化祭の開催をPRするため、県内各所でPRキャンペーンを開催した。</p> <p>（第31回国民文化祭愛知県実行委員会事務局ホームページより）</p> <p>URL：http://aichi-kokubunsai.jp/pr_event/</p>																							
効果	日野市の認知度向上。交流人口の増加。本調査から参加者の大部分が市民向けになっていたと考えられる本イベントが対外的に拡がる。																							

表 33 具体的な施策例E

具体的な施策例	E市外からの閲覧を意識したホームページを整備する
名称	ホームページ更新
目的	日野市のホームページへ気軽に立ち寄った際、日野市はこのようなところであるということを伝えるページが少ないことから、利用しやすいように整備することを目的とする
PR手法	1. 性別、年代、居住地別のPR Aと同様
主な内容	1. 日野市外在住の住民へ協力依頼 2. 現行のホームページの使いやすさ（アクセシビリティ）の調査 3. 改善 4. 改善内容の確認
事例	1. 藤枝市、春日井市、坂井市、草津市、 ○上記市において、シティセールスページを整備し、各市の魅力ある情報を発信している。 藤枝市URL： http://www.city.fujieda.shizuoka.jp/style/index.html 春日井市URL： http://www2.city.kasugai.lg.jp/damonde/#page1 坂井市URL： http://www.city.fukui-sakai.lg.jp/sakai-city-story/index.html 草津市URL： http://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/seisaku/citysales/koshin.html (草津市シティセールス専用サイトの案内)
効果	日野市の認知度向上。来訪の契機。

表 34 具体的な施策例E

具体的な施策例	E継続的なギャップ調査の実施
名称	ギャップ調査
目的	定期的に日野市に対する調査を実施することで、日野市内外の住民が抱いているイメージのギャップを明らかにし、今後の施策に活かすことを目的とする
PR手法	1. 市民へのPR 市広報誌で報告 2. 性別、年代、居住地別のPR Aと同様
主な内容	1. 対象を決める 2. 日野市民へアンケート（既存のものを利用し、足りないものがある場合に実施） 3. 分析 4. 市民が良いと感じていることを対外的にPR 5. 市民が不満を感じていることは改善した上で市内向けにPR
事例	1. 姫路市 ○姫路市では、合併により大きく変化した都市の構造等に対応したまちづくりを進めるため、平成 21 年度を初年度とし、21 世紀初頭の姫路のまちづくりの指針となる新たな総合計画づくりを進めた。平成 18 年度に基礎調査のひとつとして、住みやすさ、今後のまちづくりや市政運営に対するニーズなど幅広く意識・意向を把握し、まちづくりの課題などを分析するため、①市民 1 万人、②姫路市内外に在住する有識者、③本市職員を対象とした 3 区分のアンケート調査を実施した。 (姫路市「新しい姫路市のまちづくりアンケート」調査結果についてのホームページより) ・職員アンケート調査の概要 ・調査対象者 一般職の全職員（市立高等学校教職員等一部を除く）計 3,857 人 ・調査方法 庁内 LAN による入力（一部職場においては調査票（紙）による配布・回収） ・設問内容 ○ 回答者の属性（居住地、性別、年齢、職種） ○ 市の特性について ○ 姫路市のこれまでの取り組みに対する満足度などについて ○ 姫路市の将来像、今後重点的に行うべき取り組みについて ○ 地域の活動、市民と行政の役割分担などについて ○ 地域の団体等との協働のあり方に関する自由意見 URL： http://www.city.himeji.lg.jp/s10/2212203/1585/1587.html (姫路市「新しい姫路市のまちづくりアンケート」調査結果について)
効果	日野市の認知度向上。日野市内外の住民が抱えているイメージのギャップを知る。

(2) シティセールスを推進していくために

シティセールスを効果的に展開するためには推進体制の整備充実が必要である。市民、団体、企業等と行政が相互に連携するとともに、庁内の推進体制の充実を図る必要があると考えられる。

①市民、団体、企業、大学等との連携による推進体制の構築

日野市が市民や多くの方々から「愛され」、「選ばれるまち」となるため、市民、各種団体、企業等と連携し、「オール日野」体制で地域の魅力再発見、新たな魅力創出やその情報発信に取り組む必要がある。



図 22 オール日野体制の構築

②庁内の推進体制の充実

シティセールスの推進は、全庁的な取り組みが必要である。そのため、庁内の取り組みを推進するシティセールス担当部署の体制の充実を図り、各部・課等との連携により推進する。そして、トップセールスマンとなる市長を筆頭に、職員全員が市のセールスマンであるという認識を持てるような体制の整備を今後進めていくことが考えられる。



図 23 庁内の推進体制の模式図

③今後のスケジュール

本調査によって、調査対象地域在住者の日野市に関する認知度を知ることができた。年代、地域により抱いている本市に対する印象の違いが明らかになり有意義な調査となったと考えられる。また、他の調査（日野市市民意識調査等）と比較することで日野市民と市外在住者とのギャップを知ることができ、この差を埋める特色のあるストーリー性を持たせたわかりやすい施策や効果を測る調査を今後継続的に行っていく必要があると考えられる。併せてまちづくりの方針、継続的な調査から認知度のギャップの差が埋まっているか等の動向を見ながら、都度修正を行い、今後の具体的な方針を考えていく必要がある。

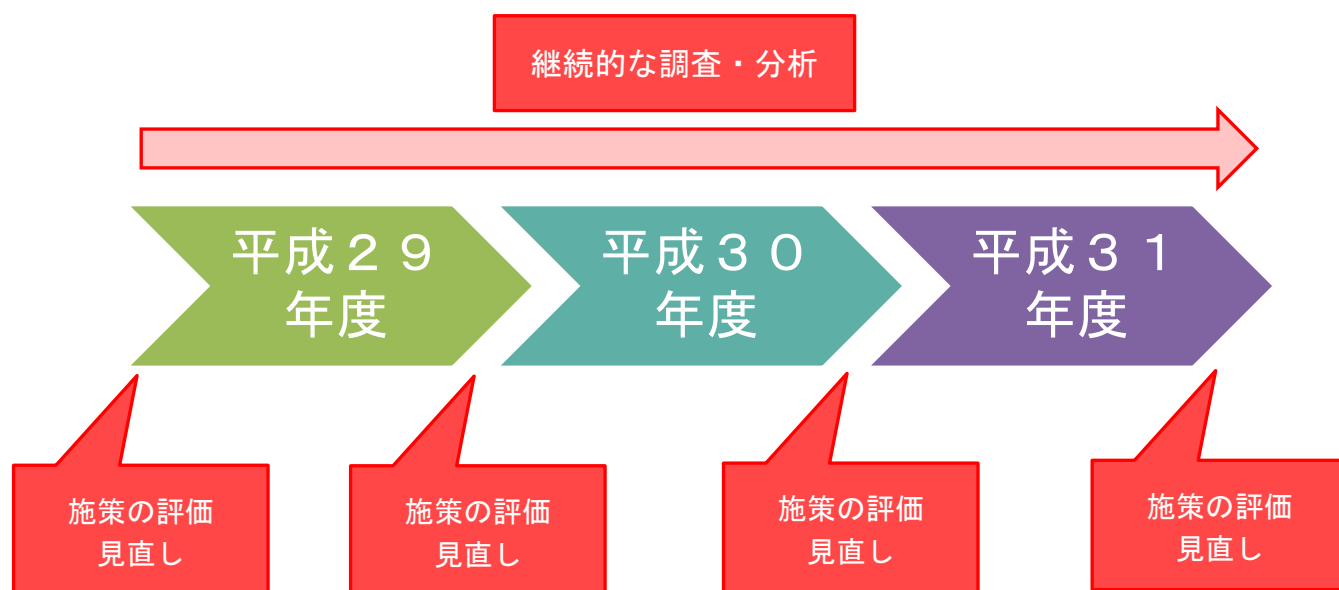


図 24 今後のスケジュールのイメージ